

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25

516

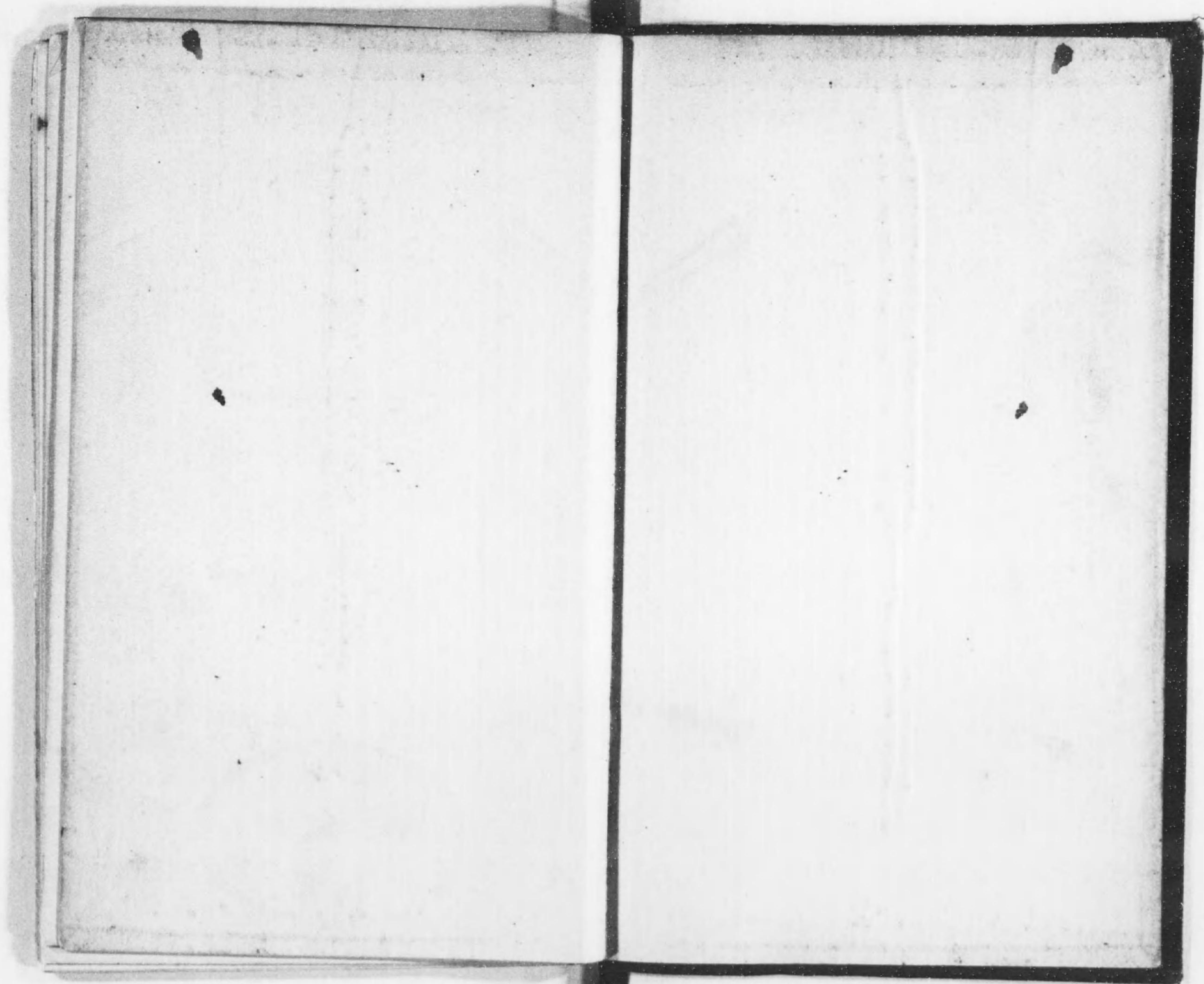
357

臺灣現勢要覽

大正十五年版

始



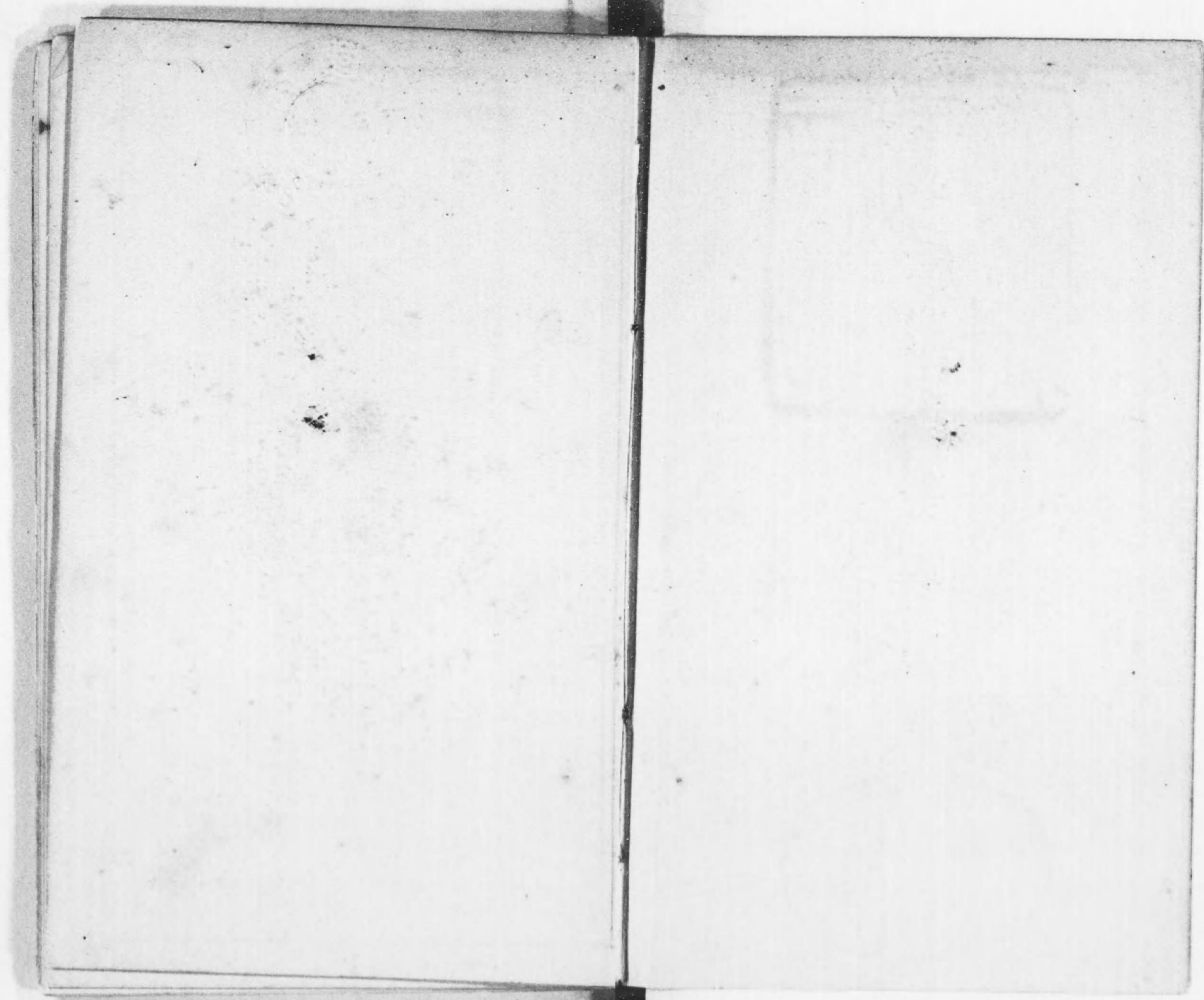




臺灣現勢要覽

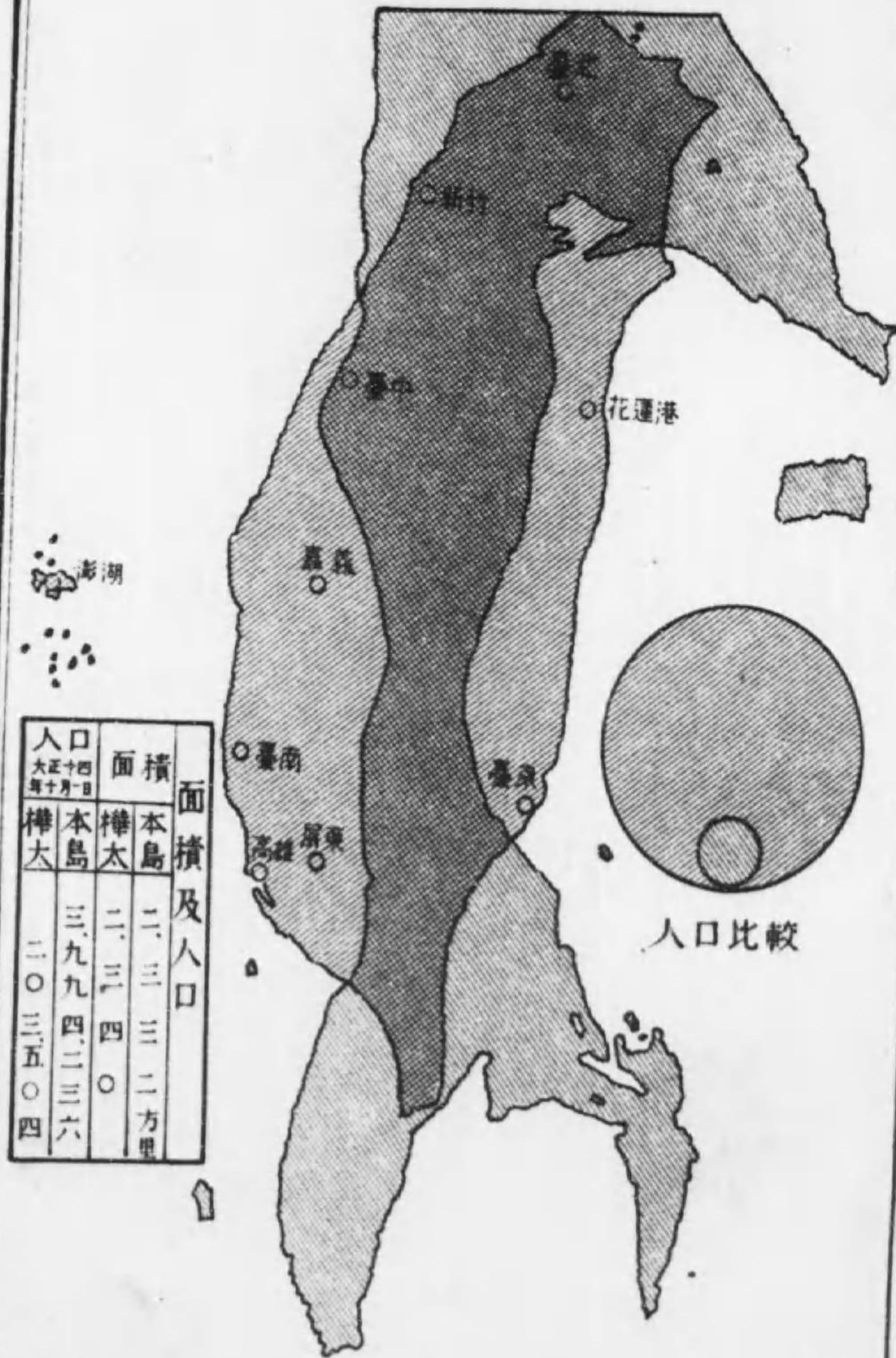
大正
15. 8. 18
寄贈

寄贈本

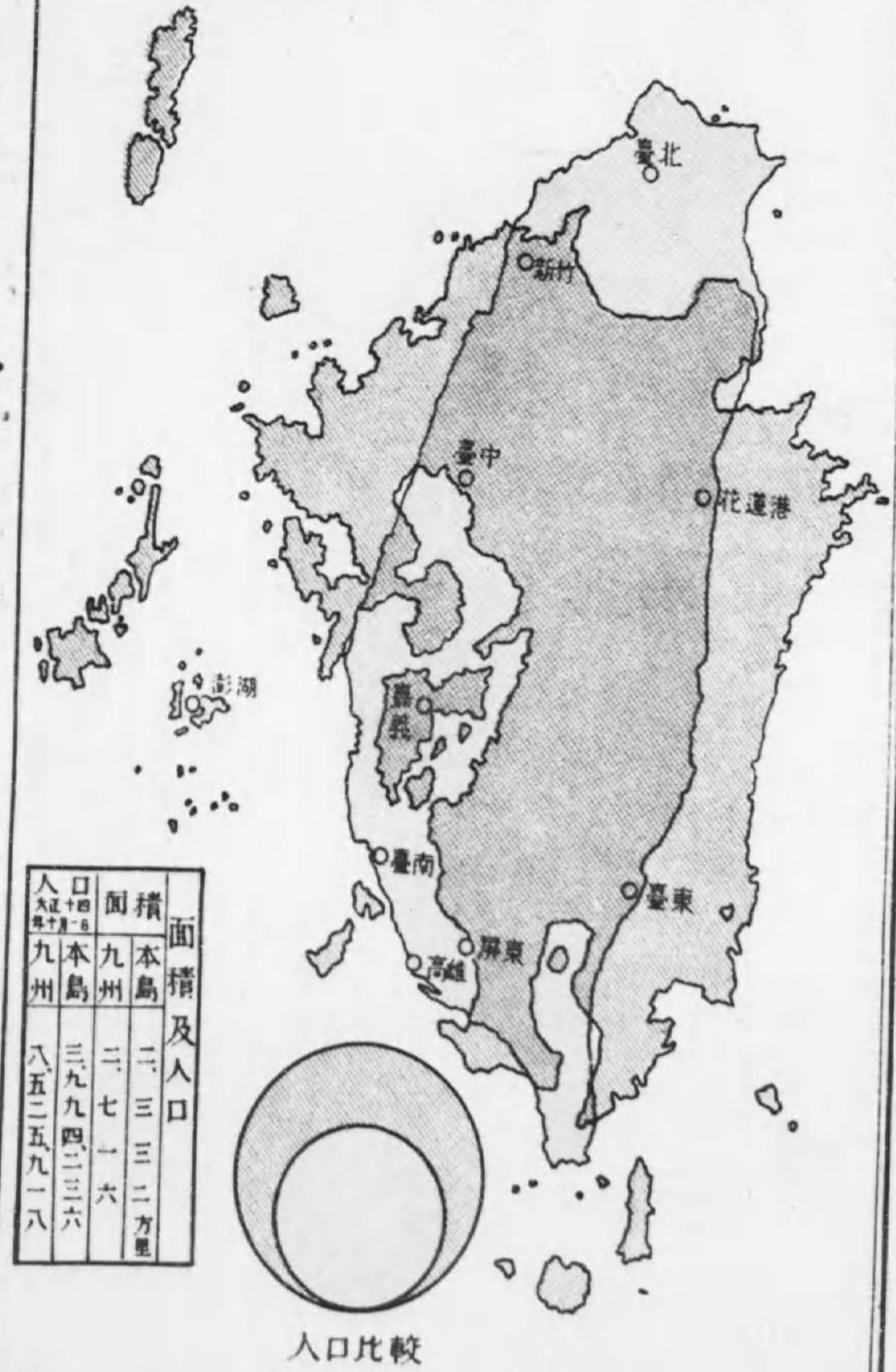


露光量違いの為重複撮影

臺灣及樺太面積並人口比較



臺灣及九州面積並人口比較



516-357

凡 例

- 一 本書は、臺灣の現勢を知るの便に資せんか爲め、主要なる事項に就て、その統計的説明を試みたるものなり。
- 二 本書は、大正十三年の事實を基礎としたるも、その最近の統計あるものは、努めて之を採り、又大正十三年の事實不明のもの又は特に必要と認めたるものは、大正十三年以前の統計をも採りたり。
- 三 本書は、主として臺灣の現勢を知るを目的とするも、特にその變遷進歩の状態を説明するの必要ある事項に就ては、累年の統計をも擧げたり。
- 四 本書は、帝國に於ける臺灣の地位を説明するの便に供せんか爲め、その必要なる事項に就ては、内地府縣、北海道、朝鮮、樺太、關東州等との比較對照をも試みたり。

大正十五年五月

臺灣總督府

臺灣現勢要覽目次

一	位置	一
二	面積	四
三	山嶽	六
四	河川	一〇
五	土地の利用	三
六	氣温	三
七	雨量	四
八	人口	七
九	本籍別内地人	三
一〇	在外臺灣人	三
一一	在留外國人	六
一二	臺灣語を話す内地人	六
一三	國語を解する本島人	三
一四	婚姻、離婚、出生、死亡	三
一五	出生率	三
一六	死亡率	三
一七	人口の増加	三

一八	茶人	四三
一九	行政區劃	四五
二〇	州及廳の面積	四七
二一	州及廳の人口	五〇
二二	主要都市	五〇
二三	農業戶數	五三
二四	耕地面積	五七
二五	水利	五九
二六	農產	六一
二七	畜產	六二
二八	林產	六五
二九	礦產	六七
三〇	水產	六九
三一	工業	七一
三二	糖業	七四
三三	貿易	七六
三四	對手國別外國貿易	七八
三五	支那、香港及南洋貿易	八二
三六	重要品別外國貿易	八五

圖表

三	臺灣及九州面積並人口比較	一一
二	臺灣及樺太面積並人口比較	一二
一	生產價額百分比	一三
五〇	警察官署及職員	一一七
四九	郵便、電信、電話	一一七
四八	鐵道	一一五
四七	阿片吸食特許者	一一三
四六	ペストとマラリア	一一一
四五	水道	一〇九
四四	衛生機關	一〇七
四三	教育	一〇三
四二	物價	一〇一
四一	銀行	九九
四〇	專賣	九七
三九	財政	九五
三八	港別貿易	九三
三七	重要品別内地貿易	九〇

四 産業ノ進歩

臺灣現勢要覽

位置

臺灣は帝國の最南端に位し、臺灣本島、澎湖列島及其の附屬島嶼より成る。今之を經緯度に釋めると、東經百十九度十八分より百二十二度六分、北緯二十一度四十五分より二十五度三十八分に至る。北は海上六百四十一哩にして九州の南端鹿兒島に達し、西は臺灣海峡を隔て、近く支那大陸に相接し、東は太平洋を隔て、遠く米大陸に相對し、南はバツシ―海峡を隔て、近く比律賓群島に相隣す。

一 經度及緯度

澎湖島	經度(東經)	極東	臺北州基隆市棉花嶼東端	一一三・〇六
	緯度(北緯)	極北	同	一一三・〇六
臺灣本島	經度(東經)	極東	臺北州基隆市棉花嶼東端	一一三・〇六
	緯度(北緯)	極北	臺北州基隆市彭佳嶼北端	一一三・〇三
	經度(東經)	極東	高雄州恒春郡七星岩南端	一一三・〇五
	緯度(北緯)	極北	高雄州澎湖郡查母嶼東端	一一三・〇三
	經度(東經)	極東	望安庄花嶼西端	一一九・二八
	緯度(北緯)	極北	同	一一九・二八
	經度(東經)	極東	大嶼南端	一一三・二〇
	緯度(北緯)	極北	白沙庄目斗嶼北端	一一三・四六

一 距

離

基隆を基點とする直航湮程

那 鹿 長 門 神 橫 釜 大 福 厦 汕 上 香 麻 海 西 盤

兒

尼

霸 島 崎 司 戶 濱 山 連 州 門 頭 海 港 刺 防 貢 谷

(門司經由)

(鹿兒島沖通過)

(門司經由)

(香港經由)

三四

六四

六三

七三

九八

一三七

八六

八五

一五一

三二

三二

三二

四一

四七

七七

九六

一三〇

一八九

新 嘉 坡
バ タ ビ ヤ

一八三四
二六九四

二面 積

臺灣の面積は二千三百三十二方里にして、帝國の總面積四萬四千百三十五方里中その五分三厘を占め、九州よりは稍小さく、樺太と伯仲し、朝鮮に比すれば約その六分の一に當る。尙ほ之を列國の面積に比すれば、瑞西(二千六百七十八方里)とサルバドル(二千二百十三方里)との中間に位す。

總數	面積 <small>方里</small>	百分比
臺灣	四四、三五	一〇〇
朝鮮	二、三三	五三
臺	一四、三二	三二
樺太	二、三四〇	五三
北海道	六、四五	一三九
内地府縣	一九、〇六	四三

本表の外租借地として關東州の面積二百四十一方里及南洋委任統治區域の面積百六十三方里あり。

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。

北海道、内地府縣及南洋委任統治區域は帝國統計年鑑に依る。

三山嶽

臺灣は帝國第一の高山新高山を始めとし、海拔一萬尺以上のもの四十八座、九千尺級のもの十七座、八千尺級のもの二十四座、七千尺級のもの二十六座を有す。故に七千尺以上の高山の總數は百十五座の多きに達し、所謂「高山國」の名に背かすして熱帶、暖帶、温帶、寒帶等各種の林相を有す。

帝國の全領土を通して一萬尺以上の高山は總數六十一座を算し、就中臺灣四十八座を占め、内地は僅かに十三座を有し、北海道、朝鮮、樺太は共に之を缺く。即ち新高山は一萬三千三十五尺を以て第一位を占め、富士山は漸く第六位に在り、内地第二の高山北嶽は僅かに四十一位を占むるに過ぎず。

山名	海面よりの高さ 尺	順位
新高山	一三、〇三五	一
次高山	一三、九七二	二
秀姑巒山	一三、六五〇	三
マボラス山	一三、五六〇	四
南湖大山	一三、五三一	五
富士山(内地)	一三、四六七	六
中央尖山	一三、二六〇	七
關山	一三、一〇〇	八

大水窟山	一三、〇二八	九
壽萊主山北峰	一二、八九五	一〇
東郡大山	一二、八九五	一一
大雪山	一二、八八〇	一二
大霸尖山	一二、七九二	一三
雲峰	一二、七七八	一四
壽萊主山	一二、六九五	一五
東巒大山	一二、四三六	一六
合歡山	一二、一〇〇	一七
北合歡山	一一、七〇〇	一八
東合歡山	一一、一〇〇	一九
南玉山	一一、〇九一	二〇
桃山	一一、二八八	二一
シンカン山	一一、二五七	二二
畢祿山	一一、二五一	二三
丹大山	一一、二二四	二四
白姑大山	一一、〇五三	二五
壽萊主山南峰	一一、〇〇五	二六
南双頭山	一一、〇〇〇	二七

能高山南峰	11,000	二八
卑南主山	10,905	二九
千卓萬山	10,903	三〇
カシバナ山	10,869	三一
郡大山	10,865	三二
タロコ大山	10,863	三三
卓社大山	10,816	三四
小關山	10,740	三五
能高山	10,732	三六
屏風山	10,673	三七
大武山	10,665	三八
尖山	10,632	三九
パトツノフ山	10,630	四〇
北嶽(内地)	10,534	四一
間ヶ嶽(内地)	10,524	四二
鎗ヶ嶽(内地)	10,492	四三
槍ヶ岳(内地)	10,487	四四
ハイノトリーナン山	10,478	四五
マビーサン山	10,450	四六

白石山	10,354	四七
ウツノシン山	10,334	四八
赤石山(内地)	10,296	四九
奥穂高岳(内地)	10,140	五〇
東俣山(内地)	10,122	五一
穂高岳(内地)	10,197	五二
安東郡山	10,193	五三
巒大山	10,150	五四
御嶽山(内地)	10,109	五五
關門山	10,073	五六
大石公山	10,060	五七
白根山(内地)	10,055	五八
小雪山	10,043	五九
仙丈ヶ嶽(内地)	10,009	六〇
南嶽(内地)	10,008	六一

内地の分は第四十三回國勢一斑に依る。

四河川

臺灣は幅員狭く、その最も廣き部分と雖、僅かに四十里内外に過ぎず、且つ高峯南北に貫通するを以て、河川の發源孰れも近く、舟楫の便は多く望むべからず。流域二十里以上のもの僅かに十を算し、最長の河川たる濁水溪にして漸く四十二里に過ぎず。

濁水溪	下淡水溪	曾水文溪	淡水河	大甲溪	烏甲溪	八獎溪	秀姑巒溪	卑南溪	大安溪
-----	------	------	-----	-----	-----	-----	------	-----	-----

本表は流域二十里以上のもののみを掲ぐ。

四二〇里	三九七	三三七	三三二	三〇〇	二八六	二八三	二六六	二五五	二〇五
------	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----

五 土地の利用

臺灣の總面積は三百六十二萬七千町步(三百七十萬八千甲)にして内、耕地七十六萬八千町步(七十八萬五千甲)、林野二百五十七萬四千町步(二百六十三萬甲)、其の他二十八萬五千町步(二十九萬一千甲)なり。

今之を内地其の他と比較するに、總面積に對する耕地の割合最も大なるは、關東州の五割一分一厘にして、臺灣は二割一分二厘を以て之に亞き、樺太の五厘最も小なり。林野に於ては、樺太の九割一分五厘最も大にして、臺灣は七割九厘を以て第三位を占め、關東州の二割五分四厘最も小なり。耕地及林野以外の土地の割合最も大なるは、北海道の三割四分七厘にして、樺太の八分最も小なり。

實數

百分比例

	實數			百分比例		
	耕地	林野	其他	耕地	林野	其他
臺灣	七六八、一四七	二五七、四三三	二八四、九〇三	二二二	七〇九	七九
朝鮮	四三三、二〇五	一五、八八三、〇〇〇	二、〇五二、八一七	一九四	七二四	九二
樺太	一七、九八一	三、三三八、〇〇〇	二九一、六三三	〇五	九一五	八〇
關東州	一九二、六四二	九五、二四二	八七、九二〇	五二	二五四	二三五
北海道	七九八、八一	五、四三七、三〇〇	三、三三〇、五九三	八四	五六九	三四七
内地府縣	五、二六六、三五四	一六、九八二、八五一	七、三〇八、九二六	一七八	五七五	二四七

耕地は大正十三年末現在なり。

林野の臺灣、樺太、關東州(州内)は大正十三年末現在、朝鮮は大正十四年五月末日現在、内地及北海道は大正十年末現在なり。
 朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。
 北海道、内地府縣の耕地は農林省農事統計表に依り、林野は第四十四回帝國統計年鑑に依る。

六氣 温

臺灣は北回歸線に跨り、半は熱帶間に位するか故に、内地に比すれば夏季長く、冬季短きも、その最高氣温は敢て内地より高しと謂ふにあらず。而も冬季は頗る暖かにして、高山ならざれば降雪なく、北部の平地に於ては偶々霜を見る事なしとせざるも極て稀なり。今内地其の他と比較するに、累年平均氣温は我臺灣最も高きも、最高極度の氣温に至りては内地其の他の部分却つて高し。即ち臺東の三十九度(華氏百二度二分)は新潟の三十九度一分(華氏百二度四分)より一分低く、又臺北の三十七度五分(華氏九十九度五分)は京城と同じくして大阪の三十七度六分(華氏九十九度七分)より一分低し。更に澎湖の三十三度五分(華氏九十二度三分)及恒春の三十四度九分(華氏九十四度八分)は大泊函館及札幌を除けば他の何れの地方よりも低し。

臺	大正十三年平均				最高の極	年	攝氏	華氏	年	月	最低の極	
	攝氏	華氏	攝氏	華氏							年	月
澎湖	23.0	73.4	23.5	72.5	33.5	9.23	91.8	41.8	7.3	4.5	34.1	
臺南	23.0	73.4	23.0	73.4	36.9	9.8	5.7	2.4	36.7	7.1	7.1	
臺東	23.3	73.9	23.4	74.1	39.0	10.2	3.7	7.4	45.3	7.1	7.1	
恒春	24.3	75.7	24.3	75.7	39.9	9.8	7.6	10.1	50.2	3.4	34.1	
臺北	26.6	79.8	26.6	79.8	37.5	9.5	4.7	10.2	33.4	3.4	34.1	
基隆	27.7	81.9	27.7	81.9	37.4	9.3	7.8	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺中	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺東	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.5	3.0	37.4	3.4	34.1	
臺南	28.2	82.8	28.2	82.8	37.2	9.2	3.					

東京	一三八	五六八	一三九	五七〇	三六六	九七九	一九一七	(1) 八二	一八〇	七一一
新潟	一三六	五四六	一三六	五四七	三九二	一〇二四	四二一八	(1) 九七	一七二	三五一二
青森	九六	四九二	九三	四八七	三六〇	九六八	四一八	(1) 一九〇	(1) 二二	二四一二

(1)は零點下を示す。

七 雨 量

臺灣は南北に依り其の降雨期を異にす。即ち北部は十月より翌年三月迄の冬季六箇月、南部は五月より九月に至る夏期五箇月を雨期とす。北部は基隆附近最も降雨量多く、基隆に近き火燒寮(暖暖街より約一里)は一年六千七百耗を以て全島の第一位を占め、且つ世界有数の降雨地として知らる。南部に於ては阿里山の四千耗最多量を示し、降雨量の最も少きは澎湖島にして一年の總量九百六十耗なり。更に之を内地其他と比較するに、臺灣は全島を通して一般に他の地方よりも降雨量多し。

臺	恒	臺	臺	澎	阿	臺	臺	北
灣	春	東	南	湖	山	中	里	北

大正十三年 總雨量	二,二二三	二,〇四六	二,二二八	一,一八二	四,六六七	二,〇八九	二,六〇八	
累年平均 總雨量	二,一六六	一,八四八	一,七二六	九六七	三,九八六	一,六九五	二,〇七二	
大正十三年 最多日雨量	一六四	二〇七	一三五	七六	三三三	一三六	三三三	
大正十三年 最多日雨量	六二二	一〇一九	八一三	二一七	六一三	六一四	九一六	

青新
森湯

一、八六三
一、二二三

一、八二四
一、三九七

四三 九六

九一 七一二五
九一 二

東	大	長	那	內	旭	札	函	北	旅	關	樺	城	京	釜	朝	火	基
				地				海	東	東	大	津	山	山	火	燒	隆
京	阪	崎	霸	縣	川	峴	館	道	順	州	泊	太	津	城	山	鮮	寮

一、四七五	九〇四	一、七二九	二、四一五		九七七	一、〇〇三	一、〇三三		三六五		八二八	四六三	一、〇〇一	一、一八二		六、七四三	三、三〇六
-------	-----	-------	-------	--	-----	-------	-------	--	-----	--	-----	-----	-------	-------	--	-------	-------

一、五七三	一、三八五	一、九五〇	二、一三四		一、〇七五	一、〇二一	一、一六二		五八八		七四四	六九八	一、二〇四	一、四四一		六、六九五	二、九一八
-------	-------	-------	-------	--	-------	-------	-------	--	-----	--	-----	-----	-------	-------	--	-------	-------

一四三	五六	一五六	二二九		一〇七	五〇	八八		五八		五七	四八	七〇	九三	?	三三六	
-----	----	-----	-----	--	-----	----	----	--	----	--	----	----	----	----	---	-----	--

九一六	四一三五	七一二七	八一四		八一三〇	八一三〇	九一三		七一〇		三一二	七一九	七一六	六一三		九一六	?
-----	------	------	-----	--	------	------	-----	--	-----	--	-----	-----	-----	-----	--	-----	---

八 人 口

臺灣の總人口は大正十三年末現在四百四萬人にして中、内地人十八萬三千人、本島人三百七十四萬二千人、蕃人八萬五千人(蕃地居住)、外國人三萬一千人なり。
 大正十四年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、帝國の總人口は八千三百萬人を算し、臺灣は三百九十九萬人にして、實に其の四分八厘を占む。(蕃地居住の蕃人を除く)更に臺灣の人口を列國のそれに比すれば、勃爾牙利(四、八四六、九七一)と瑞西(三、八八六、〇九〇)との中間に位す。

一 種族別人口 (大正十三年末現在)

種族	總 數		百分比例	
	男	女	男	女
總 數	四、〇四一、七〇三	二、〇八〇、八三三	一、九六〇、八六九	一〇〇.〇
内地人	一八三、三三七	一〇一、〇八〇	八三、三三七	四.五
本島人	三、七四三、二二六	一、九二三、六九九	一、八二八、四二七	九三.六
蕃人	八四、九九六	四二、六五〇	四三、三六六	二.二
外國人	三二、七三三	二二、四〇四	七、八六九	〇.八

本島人中には平地居住の蕃人五萬七百二十五人を合算せり。故に本表の蕃人には蕃地居住の者のみを掲上せり。

二 内地其他との人口比較 (大正十四年十月一日現在)

種族	實 數	百分比例	一方里に付
總 數	八三、四五四、三七一	一〇〇.〇	一、八七四
臺灣	三、九九四、二三六	四.八	三、二二一
朝鮮	一九、五一九、九二七	二三.四	一、三六四
樺太	二〇三、五〇四	〇.二	八.七
北海道	二、四九八、六九〇	三.〇	四〇.七
内地府縣	五七、二三八、〇二四	六八.六	三、〇二二

本表の外租借地としての關東州は人口一、〇五六、〇七六人を有し、一方里に付人口四、三八二二人及南洋委任統治區域は人口五六、二三九人を有し、一方里に付人口三四五人を算す。
 朝鮮、樺太、關東州及南洋委任統治區域は列國々勢要覽に依る。
 北海道、内地府縣は國勢調査速報に依る。

九 本籍別内地人

臺灣在住内地人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、十六萬四千二百七十一人に於て、熊本縣の一萬六千三百五十三人を占め、鹿兒島縣は一萬六千二百七十二人を以て之に亞き、福岡縣は遙かに下りて八千八百九十八人を以て第三位に在り、廣島、山口の兩縣順次に亞き其の最も少きは青森縣の二百八十二人なり。

府縣	人口	百分比	順位
熊本縣	一六、三五一	一〇・一	一
鹿兒島	一六、二七二	九九	二
福岡	八、八九八	五・四	三
廣島	八、四〇一	五・一	四
山口	七、四六三	四・五	五
佐賀	六、七八〇	四・一	六
東京	六、三四七	三・九	七
長崎	六、〇三八	三・七	八
宮城	五、六五七	三・四	九
大阪	四、六七五	二・八	一〇
分府	四、五三四	二・八	一一

新兵 愛媛 愛媛 岡山 宮崎 高崎 岐沖 石川 香川 福島 靜岡 和歌山 京都市 茨城 德島 三

庫湯 知媛 山崎 知阜 繩川 川島 根岡 山都 城島 重

四、四五六	二・七	三
四、三三〇	二・六	四
三、八二五	二・三	五
三、七三二	二・三	六
三、一三四	一・九	七
二、八二〇	一・七	八
二、七八九	一・七	九
二、六五〇	一・六	一〇
二、四三三	一・五	一一
二、四二八	一・五	一二
二、四〇一	一・五	一三
二、三九〇	一・五	一四
二、三二七	一・四	一五
二、二九五	一・四	一六
二、二〇六	一・三	一七
二、一四三	一・三	一八
二、一三三	一・三	一九
一、九七九	一・二	二〇
一、九三三	一・二	二一

一〇 在外臺灣人

在外臺灣人の總數は、大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、四千七百八十五人にしてその大部分は支那に在留す。即ち支那在留臺灣人の總數は四千二百三十六人にして、就中その三千八十五人は對岸廈門に居住し、福州は七百六十六人、汕頭は二百三十六人を算す。

支那以外の地方に在りては、爪哇の二百十八人第一位を占め、海峽植民地の百五人之に亞く。

總數		男		女	
總數	四、七八五	三、〇二五	一、七七〇		
關東	一九	一四	五		
青島	四	三	一		
支那	四、三六六	二、六三五	一、六二一		
廈門	三、〇八五	一、九二一	一、一六四		
福州	七六六	四四八	三一八		
汕頭	二六六	一六三	一〇三		
廣東	三	一八	三		
其他	二八	八五	三三		
爪哇	二八	一四九	六九		

海峽植民地		新嘉坡		其他		緬甸		香港		暹羅		比賓		智洲	
海峽植民地	一〇五	三五	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五
新嘉坡	三五	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
其他	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
緬甸	七六	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
香港	七六	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
暹羅	三五	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
比賓	三五	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
智洲	一三	二六	二六	八	二六	九	二八	三	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五

一一 在留外國人

臺灣在留外國人の總數は大正九年十月一日施行の國勢調査の結果に依れば、二萬三千六百六十四人なり。今之か國籍を經ぬるに、支那人はその大部分を占め二萬三千四百六十七人を算し、英吉利人の八十九人、北米合衆國人の四十二人順次之に亞く。

佛	瑞	露	獨	比	ベ	英	智	西	北	英	支	總
蘭	西	律	ネ	領	米	班	合	衆	吉	那	數	
西	典	亞	逸	賓	ラ	度	利	牙	國	利	那	數
一	二	二	三	四	四	五	〇	二	六	四	八	九
												三、四六七
												三、六六四

濠	波	伯	墨	加	希	諾	丁	葡
洲	刺	西	拿	哥	陀	臘	威	牙
洲	刺	西	拿	哥	陀	臘	威	牙

本表の外、外國に國籍を有せざる者七百九十九人、國籍不詳三人あり。本表には調査當日基隆碇泊の外國船乗組員をも含むを以て國籍數比較的多し。

〇一二 臺灣語を話す内地人

内地人にして臺灣語を話すもの、數は、明治三十八年の六千八百二十九人より、大正四年の一萬六千五百九十一人に増加し、更に大正九年には一萬七千二百七十三人に増加したるも、その内地人千に對する割合は、大正四年の百二十二人五分より、大正九年の百五人二分に減退したり。

總數 男 女 指數

明治三十八年	六、八二九	六、〇三〇	八〇九	一〇〇	平均	男	女
大正四年	一六、五九一	一三、四〇三	三、一八八	二四三	一九二	一七三八	三五六
同 九年	一七、二七三	一四、九六六	二、三〇七	二五三	二三五	一七六九	五三〇

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして、何れも十月一日現在なり。

男女別内地人千に付

平均 男 女

一二三 國語を解する本島人

本島人にして國語を解するもの、數は、明治三十八年の一萬一千二百七十人より、大正四年の五萬四千三百三十七人に増加し、更に大正九年には九萬九千六十五人に増加したるも、尙ほ本島人千に對し、僅かに二十八人六分を算するに過ぎず。

總數 男 女 指數

明治三十八年	一一、二七〇	一〇、八〇一	四六九	一〇〇	平均	男	女
大正四年	五四、三三七	五〇、一四三	四、一九四	四八二	三八	六八	〇三
同 九年	九〇、〇六五	八七、八九七	二、一六八	八七九	一六三	二九二	二六

本表は第一回及第二回戸口調査並に第一回國勢調査の結果にして、何れも十月一日現在なり。

男女別本島人千に付

平均 男 女

一四 婚姻、離婚、出生、死亡

臺灣に於ける最近十三年間の婚姻、離婚、出生及死亡を觀るに、人口千に付婚姻は大正元年の十一人三分より、大正十三年には十人六分に減少し、離婚は同しく一人五分より、一人一分に減少し、出生は年により多少の差異あるも、大體に於て増加の傾向を有し、大正元年の四十一人九分より、大正十三年には四十二人に増加したり。死亡は年に依り非常の相違あり、大正七年の如き三十八人八分の多きに達したるも、大正十三年には二十四人九分に減退したり。従つて出生の死亡超過数は年により甚しき懸隔あり、大正七年の如き僅かに二萬人に過ぎざりしか、大正十三年には六萬七千人に達したり。

大正元年	同 二年	同 三年	同 四年	同 五年	同 六年	同 七年	同 八年
婚姻	三七,九一九	三六,一六七	三三,九七七	三八,五八六	三七,六〇四	三八,〇九五	四〇,九〇二
離婚	五,〇八二	五,一六〇	四,六六四	五,一九五	五,四四五	四,九六八	五,一六五
出生(生産)	一四〇,四九八	一四一,三七九	一四六,一三六	一四二,五〇五	一三三,七二七	一四八,二〇九	一四五,一六三
死亡	八四,九六三	八六,六二〇	九七,五二一	一一二,一三三	一〇二,五一九	九七,九四九	一二四,六七七
自然増加 (出生超過)	五五,五三五	五四,七六九	四八,六一五	三〇,三八二	三二,一九八	五〇,二六〇	二〇,四八五
							四三,三一九

同 九年	同十 年	同十一 年	同十二 年	同十三 年
婚姻	四〇,九一五	四〇,八二九	三七,八三二	三九,四八〇
離婚	四,七二二	四,六五八	四,二二五	四,三三八
出生(生産)	一四七,三〇八	一六一,九八七	一六一,八二九	一五四,〇七八
死亡	一一九,四七七	九一,五二三	九五,三七二	八四,一〇八
自然増加 (出生超過)	二七八三二	七〇,四七四	六六,四五七	六九,九七〇
				六七,七七八

各年の年齢別人口の調査なきを以て各割合は總人口に依り算出せり。

一五 出生率

臺灣の出生率は之を最近十三年間に就て觀るに、年に依りて高低常ならずと雖、大正十年には人口千に付四十三人二分を以て最高度を示す。次に之を内地人のみに就て觀るに、逐年増加の趨勢にありしものが、大正七年以來降下の傾向を示せしも、大正十年以後は再び増加の傾向に復したり。又本島人の出生率は特に高低常ならずしも、大正十年には四十三人七分を以て最近十三年間の新記録を示せり。

更に之を内地其の他と比較するに、臺灣は其の割合最も高くして、大正九年迄は北海道と稍々一致し、内地府縣は我臺灣に於ける内地人のみの出生率と相似たる所あり。又列國中出生率の最も高きは智利の三十九人二分（大正十二年）なるか故に、我臺灣の出生率は世界に於て最も高き部類に屬す。

一 出生率（人口千に付生産）

大正	平均	内地人	本島人	外國人
元年	四一九	二九八	四三五	一一八
二年	四一四	三〇七	四三〇	一五五
三年	四二二	三〇八	四三八	一六〇
四年	四〇九	三三七	四一四	一八八
五年	三八二	三三五	三八四	一八六

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
六年	七年	八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	同	同
四一六	四〇五	三九二	四〇二	四三二	四三二	四三三	四三〇	三七四	四一九
三五四	三三二	三三二	三三八	三五二	三六九	三五〇	三六一	四〇九	四〇九
一九二	二〇三	二二二	二二六	二四七	二四七	二四八	二四九	二四九	二四九

二 内地其の他との出生率累年比較（人口千に付）

大正元年	臺灣	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
同二年	四一九	二八九	三三〇	二九六	四三五	三三九
同三年	四二二	二九七	三四二	三三二	四二五	三三七
同四年	四三二	二八二	三一九	三三五	四〇九	三三二
同五年	四〇九	二七三	三四七	二九〇	四三〇	三三五
同六年	三八二	三三八	三三七	三〇九	四三七	三三一
同七年	四〇五	三四〇	三三一	三〇〇	四一九	三一九

同八年	三九三	二七八	二八四	二五六	三〇八
同九年	四〇二	二七六	三五二	二六三	四一三
同十年	四三二	二九七	三三三	二五四	四一五
同十一年	四三三	三三八	三三三	二六四	三七四
同十二年	三九六	四〇二	三三三	二五四	三五八
同十三年	四三〇	三八二	三四三	二六四	三四六

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依り算出す。
北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

一六 死亡率

臺灣の死亡率は之を最近十三年間に就て觀るに、是れ亦高低常ならずと雖、大正十二年には著しく低下し、人口千に付二十一人六分を以て最低の新記録を示せり。内地人の死亡率は之を本島人に比すれば甚だ低く、大正十三年には本島人二十五人五分なるに對し、内地人は僅かに十二人四分を示せり。
更に之を内地其他と比較するに、大體に於て死亡率の最も低きは關東州にして、北海道之に亞き、朝鮮は内地府縣と稍々一致し、我臺灣は樺太と相似たる所あり。又列國中死亡率の最も高きは、智利及西班牙等にして大正十二年には智利三十二人八分、西班牙二十人七分を示せり。

一 死亡率 (人口千に付)

大正元年	二五三	一五八	二五八	一五四
同二年	二五三	一五三	二五八	一三一
同三年	二八一	一五〇	二六七	一九五
同四年	三三三	一七三	三三九	一九四
同五年	二九三	一六〇	二九八	一六八
同六年	二七五	一六五	二八〇	一七七
同七年	三〇八	一九六	三五五	二七七
平均				
内地人				
本島人				
外國人				

同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
八年	九年	十年	十一年	十二年	十三年	同	同	同	同
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八
二七三	三三五	二四四	二五〇	二二六	二四九	一六八	一九二	二七八	二〇八

二 内地其他との死亡率累年比較 (人口千に付)

大正元年	同二年	同三年	同四年	同五年	同六年	同七年	同八年	同九年	同十年
二五三	二五三	二八一	三三二	二九二	二七五	三三八	二七三	三三五	二四四
一六〇	一八〇	一九三	二二一	三三三	二四一	三〇七	三三九	三三四	一九八
三二五	二八五	二四五	三三九	二八五	二七一	三六二	三三一	三四二	二五七
一八四	一九七	一九七	一八一	一七〇	三三八	三三七	二二六	一五八	一五二
二〇八	一九四	二〇四	一九〇	二〇八	二〇五	二四九	二二九	二八九	一八二
一九八	一九三	二〇四	二〇〇	二〇〇	二二四	二六四	三三〇	二四六	三三九

同十一年	同十二年	同十三年
二五〇	二二六	二四九
二二四	二〇五	二二四
二〇三	二四六	二六〇
一五六	一六〇	一五二
一七六	一七九	一六五
二二五	二三〇	二二五

朝鮮・樺太、關東州は同廳統計書に依り算出す。
 北海道、内地府縣は帝國統計年鑑に依り算出す。

一七 人口の増加

臺灣の人口は、明治三十八年十月一日施行の第一回戸口調査の結果に依れば、三百萬なりしものか、大正元年には三百三十五萬に増加し、更に大正十三年には三百九十五萬に達し過去十三年間に一割八分の増加を示せり。而して大正十四年十月一日施行の第二回國勢調査の結果に依れば三百九十九萬餘を算するに至れり。

更に人口増加の趨勢を内地其他と比較するに、増加の割合最も大なるは樺太にして、關東州之に亞き、北海道は第三位を占め、大正八年迄は臺灣と内地とは殆んど其の歩調を一にす。

一 最近十三箇年間の人口 (各年末現在)

年	總數	男	女	指數
大正元年	三,三五三,九四三	一,七六三,四八四	一,五九〇,四五九	100
二年	三,四一八,二七〇	一,七九四,八〇八	一,六三三,四六二	100.3
三年	三,四六八,七一九	一,八一八,〇五六	一,六五〇,六六三	100.3
四年	三,四八三,二六六	一,八一四,九四四	一,六六八,三三二	100.4
五年	三,五〇〇,一一〇	一,八二四,一五〇	一,六八五,九六〇	100.5
六年	三,五〇六,〇五〇	一,八四六,四四五	一,七二三,六〇五	100.6
七年	三,五八三,三九五	一,八五六,一七八	一,七二七,二二七	100.7
八年	三,六三〇,三八五	一,八七八,八二〇	一,七五一,五七五	100.8

同 九年	三,六七三,二九〇	一,九〇二,七九〇	一,七七〇,五〇〇	100
同 十年	三,七五一,二二七	一,九四一,五八二	一,八〇九,六三五	100.2
同 十一年	三,八二二,五三八	一,九七四,八二四	一,八四六,七二四	100.4
同 十二年	三,八九二,九二二	二,〇〇八,〇九〇	一,八八三,八三二	100.6
同 十三年	三,九五六,七〇六	二,〇三八,一八三	一九一八,五三三	100.8

本表には蕃地居住の蕃人を除き、平地居住の蕃人は之を算入せり。

二 内地其他の累年人口指數 (各年末現在)

年	臺灣	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
大正元年	100	100	100	100	100	100
二年	101.1	104	105	105	104	101
三年	101.3	107	106	107	108	103
四年	101.4	110	104	111	110	104
五年	101.5	112	107	115	114	105
六年	101.6	114	107	121	110	107
七年	101.7	115	109	129	115	106
八年	101.8	116	111	137	119	107
九年	101.9	117	111	156	129	107
十年	102.0	118	116	156	133	106
十一年	102.1	118	116	156	133	106
十二年	102.2	118	116	156	133	106
十三年	102.3	118	116	156	133	106

同十一年	一一四	一一九	二八五	一六一	一四九	一一九
同十二年	一一六	一二一	三三三	一六八	一五六	一二〇
同十三年	一一八	一二三	三六二	一七四	一六三	一一一

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。
 北海道、内地府縣は第四十四回帝國統計年鑑に依る。
 内地府縣及北海道の大正九年以後は十月一日現在なり。

一八 蕃 人

臺灣の蕃人は之をタイヤル、サイセツト、アマン、ツオウ、パイロン、アミ及ヤミの七種族に分つ。大正十三年末現在蕃社數は七百十六、戸數二萬二千六百七十四、人口十三萬五千人なるも、就中五萬七百二十五人は平地の蕃社に居住するか故に、實際蕃地に居住するもの、數は八萬四千九百九十六人なり。
 各種族中人口最も多きはパイロン族にして、總人口の三割一分を占め、アミ族の二割九分、タイヤル族の二割三分五厘等順次に亞く。

種族	總數	男	女	百分比例
タイヤル	一三五、七二一	六七、七八二	六七、九三九	一〇〇.〇
サイセツト	三二、九二四	一五、六八八	一六、二九六	三三.五
アマン	一、三三五	六二九	五九六	〇.九
ツオウ	一七、五六六	八、九八六	八、五八〇	一三.〇
パイロン	二〇、三三九	一、〇八〇	九五九	一.五
ヤミ	四二、〇三九	二二、〇二六	二二、〇三三	三二.〇
アミ	三九、三九九	一九、六四五	一九、七五四	二九.〇
ヤミ	一、五二九	七九八	七三二	一.一
總數	一三五、七二一	六七、七八二	六七、九三九	一〇〇.〇

本表中、平地の蕃社に居住する蕃人五萬七百二十五人は本島人として人口統計に計上せらる。

一九 行政區劃

臺灣の地方行政區劃は、幾多の變遷を経たる後、大正九年九月一日に至り、地方官官制に根本的改正を加へたり。即ち從來の十二廳を五州二廳に改め、現に五州は之を五市四十六郡に分ち、郡の下には三十二街、二百二十六庄を置き、二廳は之を七支廳に分ち、支廳の下には二街一庄十九區を置き、以て從來の行政區域を全く一變したり。

全	臺北	新竹	臺中	臺南	高雄	花蓮	臺東
島	州	州	州	州	州	廳	廳
郡	四	九	八	二	三	一	一
支廳	七	一	一	一	一	四	三
市	五	二	一	一	一	一	一
街	三	五	四	二	八	五	一
庄	三	七	三	五	五	四	一
區	九	一	一	一	一	二	八

本表は大正十四年十二月末現在なり。

二〇 州及廳の面積

五州二廳中、面積の最大なるは、臺中州の四百七十八方里餘にして、高雄、臺南、花蓮港、新竹、臺北の順序を以て之に亞き、臺東廳は二百二十四方里を以て最小の地位を占む。

今之を内地府縣に比較すれば、臺中州は熊本、宮城の中間に、高雄州は山口、三重の中間に、臺南州は愛媛、千葉の中間に、花蓮港廳、新竹州及臺北州は和歌山、京都の中間に、臺東廳は鳥取、佐賀の中間に位す。

一 州及廳の面積

	面積 方里	百分比
全	二,三三三・三九	一〇〇・〇
臺北州	二九六・〇二	一二・七
新竹州	二九八・二六	一二・八
臺中州	四七八・七一	二〇・五
臺南州	三五二・五一	一五・二
高雄州	三八三・〇七	一六・四
臺東廳	二二四・八三	九・六
花蓮港廳	三〇〇・一〇	一二・九

二 内地府縣との面積比較

熊	臺	宮	山	高	三	愛	臺	千	和	花	新	臺	京	鳥	臺
本	中	城	口	雄	重	媛	南	葉	歌	蓮	竹	北	都	取	東
縣	州	縣	州	縣	縣	州	縣	縣	縣	縣	廳	州	府	縣	廳
48,289	47,871	47,245	39,464	38,307	36,970	36,950	35,151	33,929	30,685	30,020	29,826	29,602	29,586	26,949	24,833
五	六	七	五	六	七	八	九	〇	一	二	三	四	五	六	七
順	位														

面積

方里

佐賀縣 順位は、一道三府四十三縣及州、廳の面積の順位を示す。

一五八・四三

四九

二 州及廳の人口

五州二廳中、人口の最多なるは臺南州の百一萬九千人にして、臺中州は八十五萬五千人を以て之に亞き、以下臺北、新竹、高雄、花蓮港、臺東の順序を以てし、一方里の人口は臺北州四千五百七十一人を以て最高度を示し、花蓮港廳の六百十九人最も低し。今之を内地府縣に比較すれば、臺南州は宮城、秋田の中間に、臺中、臺北の兩州は岩手、青森の中間に、新竹、高雄の兩州は福井、沖繩の中間に位し、花蓮港及臺東の兩廳は、人口餘りに少くして比較すへき類の府縣なし。

一 州及廳の人口 (大正十三年末現在)

全	實數	百分比例	一方里に付人口	
			平地(蕃地ヲ除外) 面積(七九面積)	全面積
臺北	三、九五、七〇六	一〇〇・〇	三、一八一	一、七三三
新竹	八二〇、〇六八	二〇・四	四、五七一	二、七五四
臺南	五九七、五七九	一五・一	三、五〇五	二、〇四四
臺中	八五五、一五三	二一・六	三、七一九	一、八二〇
高雄	一、〇一九、八二三	二五・八	三、一八五	二、九〇五
花蓮港	五七七、九七一	一四・六	二、九八六	一、五七七
臺東	四一、九三三	一・二	六四六	二三五
花蓮港廳	五四、二〇〇	一・四	六一九	二二三

本表には蕃地居住の蕃人を含みません。但し一方里に付人口の全面積には、蕃地居住の蕃人も加へて算出せり。

二 内地府縣との人口比較 (大正十四年十月一日現在)

内地府縣	人口
宮城縣	一、〇四四、〇三六
臺南縣	一、〇一九、六八〇
秋田縣	九三六、四二〇
岩手縣	九〇〇、九八一
臺中縣	八六六、二四七
臺北縣	八二五、二〇八
青森縣	八二二、一六八
福井縣	五九七、九三八
新竹縣	五九七、七二二
高雄縣	五八四、一六四
沖繩縣	五五七、六三三
花蓮港廳	五九、一八七
臺東廳	四二、六七七

内地府縣は國勢調査速報に依る。

一一一 主要都市

臺灣には五市、三十四街あり。就中人口二萬以上の市及街は二十にして、その第一位を占むるは臺北市の十九萬一千、之に亞くは臺南市の八萬四千、基隆市の五萬八千、嘉義街の四萬三千、高雄市の四萬一千、臺中市の三萬九千、新竹街の三萬七千等なり。而して東部に於ける廳所在地たる臺東街は僅かに八千四百、同じく花蓮港街は七千二百を有するのみなり。(大正十三年末現在)

次に州及廳並に郡役所の所在地たる五市、三街を内地其の他の都市に比較するに、大正十四年十月一日現在に依れば、我が臺北市は大阪、東京、名古屋、京都、神戸、横濱、京城、廣島の八市に亞ひて實に第九位を占め、長崎市の上に位し、臺南市は平壤、靜岡兩市の中間に、基隆市は松本、福井兩市の中間に、高雄市は秋田、郡山兩市の中間に、臺中市は福島、四日市兩市の中間に、新竹街は沼津、戸畑兩市の中間に位す。而して臺東、花蓮港の兩街は共にその人口樺太の首府豊原よりも少し。

一 主要都市の人口 (大正十三年末現在)

	總數	内地人	本島人	外國人	順位
臺北市(臺北州)	一九二,一三五	五二,〇〇七	一三七,〇三三	一一,一六六	一
臺南市(臺南州)	八四,五一九	二三,六八九	六八,三〇三	二,五二八	二
基隆市(臺北州)	五八,五二四	一五,〇三三	四〇,五五七	二,九四五	三

嘉義街(臺南州)	四三、四二七	六、四〇三	三六、一三〇	八九四	四
高雄市(高雄州)	四一、二四七	九、九七九	三〇、四三七	八三一	五
臺中市(臺中州)	三九、八三三	一〇、一四九	二八、九六八	七二六	六
新竹街(新竹州)	三七、三五四	三、九五七	三三、九七三	四二四	七
鹿港街(臺中州)	三三、一五五	二七〇	三一、六九四	一九一	八
斗六街(臺南州)	二六、三二七	八四二	二五、二七六	一〇九	九
清水街(臺中州)	二五、八四二	三三五	二五、四六二	四五	一〇
大溪街(新竹州)	二五、五八八	三五九	二五、一六三	六六	一一
屏東街(高雄州)	二五、〇九三	三、〇三〇	二一、四六二	六〇一	一二
麻豆街(臺南州)	二四、六五七	五一七	二四、一〇三	三七	一三
埔里街(臺中州)	二三、六八三	一、二一五	二三、三五三	二二五	一四
豐原街(同)	二三、五六五	五六九	二三、八六九	二二七	一五
員林街(同)	二三、三三四	五一八	二三、五九六	二二〇	一六
南投街(同)	二二、九六〇	六五三	二二、三四二	六五	一七
淡水街(臺北州)	二二、六八九	七三二	二〇、六一八	三四九	一八
宜蘭街(同)	二一、六四七	一、八四二	一九、六二〇	一八五	一九
馬公街(高雄州)	二〇、七四九	二、三六三	一八、三五五	三一	二〇
臺東街(臺東廳)	八、四〇五	一、六五九	六、四一九	三三七	二一

花蓮港街(花蓮港廳) 七、二六二 三、三三四 三、五五九 三七九 三
 本表には、人口二萬以上の市及街のみを擧げ、且つ廳所在地たる臺東、花蓮港兩街を掲ぐ。

二 内地其の他の都市との人口比較 (大正十四年十月一日現在)

廣 臺 長 釜 濱 平 臺 靜 松 基 福 仁 秋

島 北 崎 山 松 壤 南 岡 本 隆 井 川 田

人口	一九五、七三一	一九五、五五五	一八九、〇七一	一〇六、七五九	九二、一五二	八九、一四四	八四、八四一	八四、七七二	六三、四二七	六二、二八五	五九、九四三	五六、二九五	四三、八八五
----	---------	---------	---------	---------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------	--------

高 雄山郡 福島 臺中市 四日市 沼津 新津 戸畑 豐原(樺太) 臺東 花蓮港 朝鮮、樺太は同廳國勢調査速報に依る。内地府縣は國勢調査速報に依る。

四三、七五一
四二、九八四
四一、三七九
四一、二一五
四〇、三九三
三八、〇四二
三七、七七五
三七、七四八
二二、七八三
八、八七九
七、八二七

二二三 農業戸數

臺灣の農業戸數は三十九萬戸にして、總戸數の約五割二分を占め、農業者一戸當平均耕地面積は一町九段(約二一甲)に當る。今之を内地其の他と比較するに、總人口に對する農業戸數の割合最も大なるは、朝鮮の七割八分八厘にして、臺灣は第三位を占め、樺太は僅かに二割九分三厘を以て最下位に在り。

農業者一戸當平均耕地面積の最も大なるは、北海道の四町七段にして、關東州の三町四段之に亞き、臺灣は第三位を占め、内地府縣は一町歩を以て最下位に在り。

臺灣	朝鮮	樺太	關東州	北海道	内地府縣
三九〇、二三四	二、七〇四、二七二	八、七九二	五五、六七二	一六八、九〇九	五、三六三、五二〇
五三三	七八八	二九三	五五〇	三七三	五〇九
二〇	一六	一九	三四	四七	一〇

本表は大正十三年末の事實なり。朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。

二五 水利

臺灣に於ける埤圳の數は、一萬二千二百十九にして内、水利組合九十六、公共埤圳七、認定外埤圳一萬二千百十六なり。又其の灌漑面積は三十四萬三千甲にして内、其の五割は水利組合の灌漑に屬す。

總	埤圳數	灌漑面積 ^甲	灌漑面積 百分比例
水利組合	一三、三九	三四三、三九六	一〇〇・〇
公共埤圳	九六	一八五、八一九	五四・一
認定外埤圳	七	六一、四八三	一七・九
認定外埤圳	一三、二一六	九六、〇九四	二八・〇

本表は大正十四年四月一日現在の事實なり。
本表の外事業計畫中の組合二あり。

二六 農 産

臺灣の農産物は、大正十三年中の總生産價額二億二千二百萬圓にして内、普通作物一億五千百萬圓、特用作物五千百萬圓、園藝作物千九百萬圓なり。
 更に之を作物別に觀るに、米は一億三千萬圓を以て第一位を占め、甘蔗は三千九百萬圓を以て之に亞き、甘藷の千八百五十萬圓、蔬菜類の八百六十萬圓、苧蕉の八百萬圓、茶の六百五十萬圓、落花生の二百三十萬圓、柑橘の百四十萬圓、豆類の百六十萬圓等順次に亞く。

總 額	生産價額	百分比例	作付面積	收穫高
普通作物	一,三三,三七,六九二	一〇〇.〇	—	—
米(玄米)	一,五二,四〇,五二七	六八.二	—	—
甘藷	一,三〇,七二,六二八	五八.八	—	—
豆類	一,八五,五七,六四	八.三	—	—
小麥	一,六五,一四,九七	〇.八	—	—
其他	八二,〇七,三	〇	—	—
特用作物	四三九,五五六	〇.二	—	—
甘蔗	五二,一九一,〇七四	二三.〇	—	—
落花生	三九,三七六,九九三	一七.七	—	—
其他	—	—	—	—
總 額	二,三三,三七,六九二	—	—	—

茶	六,五二四,一七一	二.九	—	—
落花生	二,三七五,八一九	一.一	—	—
煙草	五八九,八一〇	〇.三	—	—
黃麻	六一九,八七六	〇.三	—	—
苧麻	七九九,九〇六	〇.四	—	—
胡麻	二五九,四八九	〇.一	—	—
藍	一八九,五六三	〇.一	—	—
其他	四五五,四四七	〇.二	—	—
園藝作物	一九,七〇九,五一七	八.九	—	—
苧蕉	八,〇四八,二九五	三.六	—	—
柑橘	一,三九八,七二四	〇.六	—	—
龍眼	四二七,一一八	〇.二	—	—
檳榔	二二三,九〇八	〇.一	—	—
鳳梨	五八一,八七九	〇.三	—	—
椰子	一三三,八七〇	〇.一	—	—
李	一一〇,一〇九	〇	—	—
蔬菜	八,六一六,五八四	三.九	—	—
其他	一七九,〇三〇	〇.一	—	—
其他	七二,九二八	〇	—	—

二七 畜 産

臺灣の畜産物生産總價額は、大正十三年に三千百萬圓を算し内、家畜生産二千六百五十萬圓、家禽生産四百四十萬圓、牛乳三十七萬圓なり。
 家畜生産中、豚は二千四百萬圓を以て第一位を占め、水牛の百五十萬圓之に亞き、家禽生産中第一位を占むるは鶏の三百四十萬圓なり。

總 額		生産價額	生産價額 百分比
家畜	三二、三四、七二〇	二六、五五、三三五	100.0
水牛	一、五六、〇九八	四五九、四二九	八四.六
黄牛	一二七、五〇六	一五〇	五.〇
其他の牛	二四、一五九、九六四	〇.四	一.五
豚	一七七、三三六	七七一	〇.四
山羊	二九、九九二	〇.五	〇.二
其他	四、四五、七八三	一四.二	〇.一
鷄	三、四一三、三七四	一〇.九	〇.三
鷺	七三七、八三四	二.四	〇.一

牛 七 鷺
面 鳥
乳

二九二、七三五
一一、八四〇
三七三、六一二

〇九
〇
一二

二八 林 産

臺灣の林産物生産總價額は、大正十三年に一千百四十萬圓を算し内、官行生産價額二百九十萬圓、一般生産價額八百四十萬圓なり。
官行生産價額中第一位を占むるは丸太の百七十萬圓にして、一般生産價額中にては薪の二百九十萬圓第一位を占む。

品名	價額	價額百分比
總官行生産價額	二九二、七三五	100.0
丸太	二九六、五七二	二六.〇
製材	一七六、三三四	一五.四
副製品	一、三六、二九〇	一.〇
一般生産價額	六七、九四八	〇.六
木材	八、四六一、六五八	七.四
竹材	二、〇七九、一五七	一八.一
籐材	一、〇五八、五七三	九.三
木炭	一七〇、五八一	一.五
薪	一、二四三、八五三	一〇.九
薪炭	二、九七八、四七七	二六.一
筒	六九三、九六四	六.一

蓮草 三八、四三三 〇三
 薯榔 二八、三三八 〇二
 姜黃 一八、九五四 一〇
 其他 五二、四四九 〇五
 官行生産價額は營林所に於ける賣拂價額にして、大正十三年度の事實を掲
 上せり。

二九 鑛 産

臺灣の鑛産總價額は、大正十三年に一千三百萬圓を算し内、石炭は總産價額の八割強、
 即ち一千百六十萬圓を以て第一位を占め、金銅鑛は八十一萬圓を以て之に亞き、金の三
 十八萬圓、石油の二十八萬圓等順次之に亞く。

總額	産額	價額	價額百分比
石炭	一、五〇六、四五一噸	一三、三一九、三〇三	100.0
石油	七〇、五三三噸	一一、六四五、四六六	八七.四
銅	三〇七、六八六斤	三八〇、三六六	二.九
石	一九、八三五石	一三〇、六七二	一.〇
金	六、三〇七、八二〇貫	二八三、八五六	二.一
硫磺	三、一三四、四三七斤	八二七、九六三	六.二
銀	九一、三四四匁	三九、二一四	〇.三
砂金	一、三三九匁	一六、九九七	〇.一
		四、七六九	〇

三〇 水 産

臺灣の水産總價額は、大正十三年には一千六百四十萬圓以上に達し内、水産漁獲物九百萬圓、養殖場漁獲物三百萬圓、水産製造物三百四十萬圓、製鹽七十八萬圓なり。
 更に之を品目別に觀れば、鯉節の二百五十萬圓第一位を占め、鯉、虱目魚サツバダイの各二百萬圓の百二十萬圓、鮪の百萬圓等順次之に亞く。

品名	價 額	價額百分比
總 額	一六、四三一、八九一	100.0
水産漁獲物	九、一九三、〇三六	五五九
鮪	一、二八三、八七〇	七八
鯉節	二、〇七三、八一	一二六
鯉	七八二、五七七	四八
鯉	五七、三八七	三二
鮪	二九、四七二	一八
鮪	一六〇、四二一	一〇
鮪	一、〇七六、〇二四	六五
鮪	一四七、四三三	〇九
鮪	一四五、一八六	〇九

製 其
鹽 他

一九一、四七四
七八六、二五四

一三
四八

鹽	鰾	鰾	蒲	煮	鯉	水產	其	紙	烏	蚶	草	鱧	虱	養殖場	其
魚	鱈	仔	銚	干	節	製造	他	魚	魚	仔	魚	魚	魚	漁獲物	他
						物									

四二、七〇四	一三五、七八七	五五、四五〇	一三六、七五四	三五九、一九五	二、四九九、〇一三	三、四二〇、三七七	六〇、四二六	一一二、一〇六	一五一、五〇五	二四五、九五七	二二三、〇七三	二四三、一〇四	一九九六、〇五三	三、〇三三、二二四	二七〇六、八四五
--------	---------	--------	---------	---------	-----------	-----------	--------	---------	---------	---------	---------	---------	----------	-----------	----------

〇三	〇八	〇三	〇八	二二	一五二	二〇八	〇四	〇七	〇九	一五	一四	一五	二一	一八五	一六五
----	----	----	----	----	-----	-----	----	----	----	----	----	----	----	-----	-----

三一 工業 產

臺灣の工業總生産價額は、大正十三年に二億三千六百萬圓を算し内、砂糖の一億六千八百萬圓は群を抜いてその第一位を占め、再製茶の一千萬圓、酒精の四百九十萬圓、金屬製品の三百七十萬圓等順次之に亞く。

總額	生産價額	生産價額 百分比
砂糖	一六八,二五五,四四三	七・二
酒精(稅拔)	四,九五六,七二六	二・一
再製茶	一〇,五〇〇,七二七	四・五
金屬製品	三七七,七三九	一・六
木製品	三,三三六,九七四	一・四
セメント	三,〇二一,七四〇	一・三
染色類	一,八八七,〇九三	〇・八
麵類	二,四九四,七八二	一・一
煉瓦	一,二八八,三六八	〇・六
調合肥料	二,六二二,五八〇	一・一
金銀細工	一,四三三,二一〇	〇・六
味増及醬油	一,八五六,六四一	〇・八

植物性油	二,七二二,五九〇	一・二
及同油	七四五,八五九	〇・三
敷瓦及屋根瓦	一,二七八,五四八	〇・五
金銀紙	三,一七八,二四八	一・三
製粉	二,一九八,一六六	〇・九
綿布、麻布類	一,四三七,六三九	〇・六
糖蜜(稅拔)	二,一五九,四六九	〇・九
帽子	九八六,一七七	〇・四
靴	一,九〇一,八一	〇・八
板狀樟腦	一四,三九六,六六四	六・二
其他		

三一 糖 業

臺灣の糖業は大正十四年期に於て、公稱資本額二億八千萬圓、作業工場數百八十九、許可作業能力三萬五千八百六十英噸を有し、其の製糖高七億九千九百萬斤に達す。就中新式製糖會社の數は十三にして作業工場數四十四、許可作業能力三萬三千三百六十英噸を有し、その製糖高七億七千八百萬斤を算す。

總	公稱資本金	作業工場數	許可作業能力	製糖高	製糖高百分比
數	千圓		英噸	斤	
新式製糖會社	二八二,五三〇	一八九	三五,八六〇	七九,九三三,〇四七	一〇〇
臺灣製糖	二七一,二〇〇	四四	三三,三六〇	七七,八七四,三九二	九七
東洋製糖	六三,〇〇〇	一〇	八,一〇五	一八,七八一七,四八〇	二三
明治製糖	三六,二五〇	六	四,三七〇	一〇,七六八,八〇三	二六
帝國製糖	三七,五〇〇	五	四,七九五	一一,三八九,八九三	一四
新高製糖	一八,〇〇〇	五	二,八八八	七,四三二,一九九	九
鹽水港製糖	二八,〇〇〇	三	二,九三三	四,八七二,〇六〇	六
大日本製糖	二五,〇〇〇	六	四,五〇〇	九,七〇二,一三六	一一
臺南製糖	二七,二五〇	二	二,二〇〇	九,七五六,一一一	一一
新竹製糖	二〇,二五〇	二	一,一七〇	七,九〇四,〇〇〇	一〇
總計	七,五〇〇	一	五〇〇	六,〇六一,一九〇	〇八

林本源製糖	三,〇〇〇	一	七五〇	二三,七九七,六〇〇	三〇
沙撈越製糖	二,五〇〇	一	三〇〇	五,〇三三,六五〇	〇六
臺東製糖	一,七五〇	一	三五〇	三,九六二,七〇〇	〇五
新興製糖	一,二〇〇	一	五〇〇	一一,九三六,四〇〇	一五
改良糖廊	一,一三〇	一三	一,一八〇	八,〇四〇,一一一	一〇
舊式糖廊	一	一三三	一,三三〇	一三,四一八,五四四	一六

大正十四年期は大正十三年十一月より同十四年十月に至る期間を云ふ。

三三 貿易

臺灣の貿易は之を外國貿易及内地貿易(臺灣内地間貿易)の二種に分つべきも、今之を總括すれば明治三十年の三千一百萬圓より大正元年の一億二千五百萬圓に進みたり。然るに大正二、三の兩年は砂糖の減産と一般商況の不振に依り少しく減退したるも、大正五年には世界大戰の影響を受けて、一億七千七百萬圓に達し、大正六年には二億圓臺に上り、大正八年には更に三億圓臺を突破し、翌大正九年には三億八千九百萬圓と云ふ新記録を作り、之を大正元年に比すれば實に二十一割の増加にして、人口一人當百六圓を算す。然るに大正十年及同十一年には世界經濟界の不況に伴ひ再び二億七、八千萬圓に減退したりしも、大正十二年には復た三億圓臺に上り、大正十三年には三億八千萬圓に達せり。

次に貿易總額に對する内外兩貿易の割合を觀るに、内地貿易は常に過半數を占め少きも七割、多きは七割八分に達す。

一 貿易總表

年	總額		指數		外國貿易		内地貿易		百分比例		平均一人當
	千圓	千圓			千圓	千圓	外國貿易	内地貿易	外國貿易	内地貿易	
大正二年	二四、四八	二四、四八	九二	三〇、九六六	八三、二八二	二七二	三七二	三七二	三七二	三七二	三〇四
大正元年	二五、四二四	二五、四二四	一〇〇	三四、二六七	九一、二五七	三七三	三七三	三七三	三七三	三七三	三〇四

二 外國貿易

年	總額		指數		輸出		輸入		輸入超過
	千圓	千圓			千圓	千圓	千圓		
同三年	一一、六三三	一一、六三三	八九	三五、九九六	八五、六三七	二二三	七六七	三三二	
同四年	一一、〇三三	一一、〇三三	一〇三	二八、二二二	一〇〇、八二一	二一九	七八一	三七〇	
同五年	一七、七三〇	一七、七三〇	一四二	四七、〇八三	一三〇、二八七	二六五	七三五	五〇五	
同六年	二二、四六一	二二、四六一	一八七	六一、三三五	一七三、三七六	二六一	七三九	六五九	
同七年	二四、五七六	二四、五七六	一九四	六六、九四九	一七六、六二七	二七五	七二五	六八〇	
同八年	三三、五三六	三三、五三六	二六五	九九、七五五	二三三、七八一	三〇〇	七〇〇	九一六	
同九年	三八、七〇二	三八、七〇二	三二〇	九五、五四〇	二九三、一六二	二四六	七五四	一〇五八	
同十年	二八、三九三	二八、三九三	二二八	六三、九七五	二二二、四一八	二三三	七七七	七六三	
同十一年	二七、九六〇	二七、九六〇	二二二	六七、四八五	二二九、四七五	二四四	七五六	七二五	
同十二年	三〇、八七四	三〇、八七四	二四六	六八、二六四	二四〇、四六〇	二三一	七七九	七九三	
同十三年	三八、七〇〇	三八、七〇〇	三〇八	八九、〇〇〇	二九七、七〇〇	二三〇	七七〇	九七七	
大正元年	三四、二六七	三四、二六七	一〇〇	一四、九六〇	一四、九六〇	一九、三〇七	四、三四七		
同二年	三〇、九六六	三〇、九六六	九〇	一二、九四三	一二、九四三	一八、〇三四	五、〇八一		
同三年	二五、九九六	二五、九九六	七六	一二、九八二	一二、九八二	一三、〇二四	三三		
同四年	二八、二二二	二八、二二二	八二	一五、四三〇	一五、四三〇	一二、七八二	二、六四九		
同五年	四七、〇八三	四七、〇八三	一三七	三二、六五二	三二、六五二	一五、四三〇	一六、二二二		

三四 對手國別外國貿易

臺灣の外國貿易は大體に於て輸入超過を示す。而して對手國中支那は累年主要の地位に在り。即ち輸出貿易總額に對する其の割合は少きも二割八分五厘、多きは五割二分を占め、輸入貿易に於ては更にその割合大にして、少きも三割四分、多きは五割七分を占む。

今大正十三年の外國貿易に就て觀るに、貿易總額八千九百萬圓中、輸出額は四千二百萬圓にして、就中支那の二千二百萬圓最も多く、總額の五割二分に當り、香港の五百七十萬圓、北米合衆國の五百二十萬圓、蘭領印度の三百五十萬圓等順次之に亞く。輸入額四千六百萬圓中第一位を占むるは支那の二千六百萬圓にして、總額の五割七分に當り、北米合衆國の三百五十萬圓、蘭領印度の三百萬圓、英吉利の二百八十萬圓、英領印度の二百七十萬圓、波斯の百三十萬圓等順次之に亞く。

一 輸出

總額	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
關東州	四三,五七六	二九,一五三	三〇,五六三	三三,五四三	三五,一七二	三五,六三三	一四,九六〇
支那	八六一	七二二	六二二	二五八	三四	七二二	一三
香港	三二,一五四	一〇,五三六	一〇,三〇〇	九,一七八	一一,八九三	一一,二〇八	四,二六四
其他	五,七六六	四,一七二	四,三三三	四,五六九	六,〇三三	五,三三五	三九三

二 輸入

總額	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
蘭領印度	三,五四〇	三,一八九	三,二九四	三,〇六五	二,八九一	一,八五五	三三
暹羅	一,三九三	一,一九二	一,〇三三	六二九	五三七	四六六	—
英領印度	三二二	一八四	二二〇	三五六	六六二	五二六	三四五
海峽植民地及英領ボルネオ	六〇一	三九四	四三一	四四五	二,〇二二	一,七〇六	五二
比律賓諸島	八〇九	一,〇四九	三四二	二二二	三八五	三四三	六八二
佛蘭西	二三四	二四	一八五	六	〇	—	一,五七三
獨逸	一,一六八	八四一	一,〇三三	二〇五	一,三五九	九九〇	一,〇八七
英吉利	五,二五七	六,五九七	七,六九一	三,三三二	六,八三三	七,〇二一	四,九二七
北米合衆國	四九〇	二七三	一,一二二	一,二八八	二,五四四	四,五七二	一,六二三
其他	—	—	—	—	—	—	—

英領印度	二七〇六	一四九六	一、二七	一、六四九	一、八九九	三、五六七	二、二七三
海峽植民地及英領ボルネオ	二六八	一四四	九三	一二七	一四三	一五〇	五六
濠太刺利	一、二七五	六二二	一八五	八八	七六	四七	六三
波 斯	一、三四六	三九二	五六六	九三八	二、九九四	三、三〇一	一、四三五
獨 逸	六七四	五三三	三二	一六	一	一	一〇七二
英 吉 利	二、八八五	一、九五八	一、四六五	一、九八九	九二八	一、五七五	三、四九〇
北米合衆國	三、五〇五	六、三七一	三、三〇一	四、九六九	五、五六七	三、四四三	一、七〇〇
英領アメリカ	六七一	二九六	五三三	一五四	五七七	二五〇	一
其 他	二、一五九	一、六四四	四、三七一	一、七六九	四、〇三二	一、三三四五	五五四

三五 支那、香港及南洋貿易

臺灣の外國貿易中、臺灣と最も密接の關係を有する支那、香港及南洋との貿易を再檢するに、年に依り多少の相異なるも、大體に於て常に重要な地位を占む。即ち大正十三年に就て觀るに、輸出額は三千三百萬圓にして、輸出貿易總額の約八割を占め、輸入貿易は三千四百萬圓にして、輸入貿易總額の七割四分に當れり。

一 輸 出

總 額	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
支 那	三、八六一	一九七六一	一九、六九七	一八、七五九	二四、一七五	三三、四二〇	五、二四八
香 港	三、一五四	一〇、五三六	一〇、三〇〇	九、一七八	一一、八九三	一一、一〇八	四、二六四
南 洋	五、七六六	四、一七二	四、三三三	四、五六九	六、〇三三	五、三三五	三、九三
總 額	五、九四一	五、〇六三	五、〇七四	五、〇二二	六、二五九	四、九六七	四、九一

本表の南洋とは英領海峽植民地、英領ボルネオ、蘭領印度、比律賓、英領印度、佛領印度、暹羅及濠太刺利を謂ふ。以下同し。

二 輸 入

總 額	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
支 那	三、四二〇六	二四、四〇三	二三、八四八	二九、一四七	四二、三五〇	三八、八五五	九、九四二
其 他	二、六三七	一七、四六八	一八、二三元	一九、四六五	二八、七三四	二八、六七三	六、七七七

南洋 香港 三比例 七二 七二 八九 七一 二四 七七 八五 一九 七八〇七 六八二七 五五三八 九五六八 一三、五三九 一〇、〇九七 三、〇五六

三比例

總額 支那 香港 南洋

外國貿易總額に對する割合

支那、香港、南洋貿易總額に對する百分比例

大正十年		同 十一年		同 十二年		同 十三年	
輸	入	輸	入	輸	入	輸	入
七九七	七二二	六四四	六四六	六七八	六三〇	七九五	七三七
三九〇	四八二	三三七	四九四	三六二	四四八	五三〇	五六七
一九四	〇三	一四二	〇三	一四三	〇三	一三五	〇三
二二三	三三七	一六六	一七四	一七四	一七四	一六八	一六八
二九〇	四八二	三六二	四四八	三六二	四四八	五三〇	五六七
四八九	六六八	四八九	六六八	四八九	六六八	四八九	六六八
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇
一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇	一〇〇〇

三六 重要品別外國貿易

臺灣の外國貿易中輸出品の主要なるものは、茶、石炭、砂糖、樟腦、酒精等なり。今大正十三年に就て之を觀るに、茶は一千五十萬圓を以て第一位を占め、石炭の七百三十萬圓、砂糖の六百萬圓、樟腦の二百六十萬圓等順次之に亞く。

次に輸入品の主要なるものは、豆油糟、砂糖、阿片、木材及板、石油、包蓆、豆類等にして、大正十三年には豆油糟の千二百六十萬圓第一位を占め、砂糖の三百八十萬圓、豆類の三百萬圓、木材及板の二百七十萬圓、硫酸アンモニウムの百八十萬圓、ガンニ一囊の百七十萬圓、包蓆の百五十萬圓、小麥の百四十萬圓、阿片の百三十萬圓、石油の百四十萬圓等順次之に亞く。

一輸出

品名	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
茶	一、〇五〇	一、〇〇八	九、五五三	七、九四五	六、四〇〇	八、二〇九	六、六七四
砂糖	六、〇一四	二、四〇〇	二、八三二	二、三二五	六、九六七	七、五八八	一、七一九
石炭	七、三〇五	五、六九五	五、七一九	六、五八二	八、九八二	八、〇三七	一、一八
樟腦	二、六三七	三、三〇五	四、四一八	二、八〇	四、三三五	三、〇七四	四、五〇〇
樟腦	五、二八	一、三七	二、六八	五、四五	一、三六四	二、一五	一、一八
織物	一、四八六	四、五四	一、一六七	一、三〇三	二、一七一	一、二三〇	九

綿織物	五三九	五四〇	五九四	五九九	三八八	八八五	一、二〇六
小麦	一、四四七	九六八	三一九	一三九	七六	三四三	—
硫酸アンモ	一、八三五	九一九	三三九	三四九	—	—	—
ニウム(粗製)	二七二	七三七	一二七	三六八	一七四	九二八	—
鐵	一、七六四	一九九	三三九	三九五	七三六	四三四	—
ガンニ(囊(故共))	五七九	六二四	四三三	六七二	七九四	七二二	—
麻織物	—	—	—	—	—	—	—

乾魚及鹹魚	二、八五三	五九六	五九六	九一七	七八五	六一	一五七
セメソト	七九八	六五二	一、一〇七	一九五	一三	三四	—
苧麻	四五三	三六五	四〇六	四三五	六五八	六八二	—
酒精	一、六三二	一、三〇〇	六五二	五七一	三二	三五七	—
龍眼	一四六	四六〇	一三五	一二五	一四五	一二〇	—
錫及乾烏賊	一、五八九	五三三	五四	六三	一八	七六	—
豆油	二、六八四	七、六五七	七、八三三	六、二五四	二、二九八	二〇、一三三	—
砂糖	三、八三八	四、四四五	六、〇九九	五、三七七	二、〇九九	一五、五七四	—
阿片	一、三六九	一、五二一	一、六六九	一、五〇五	六、〇六二	六、四三四	—
米	六、一四	二、六六	四、五〇	一、三三一	三、九三八	七、四〇九	—
木材及板	二、六九九	二、三三二	二、一四六	二、二四八	二、六〇二	一、七七五	—
石油	一、四三四	一、三九九	一、三七四	一、九四七	一、九二一	二、三三六	—
包蓆	一、五二六	一、八八〇	一、六五九	五七五	一、三五三	二、四六八	—
煙草	九八八	四二七	九〇一	八五七	一、七三四	一、六七九	—
豆類	三、二二八	二、五七八	二、九〇八	一、四九三	一、八四四	九四〇	—
紙	八五〇	七七三	八六三	一、二七六	一、一八七	七九七	—

二 輸 入

大正十三年

同十二年

同十一年

同十年

同九年

同八年

同元年

三七 重要品別内地貿易

臺灣の内地貿易中移出品の主要なるものは、砂糖、米、芭蕉實、樟腦及樟腦油、木材及板材、酒精、セメント、石炭、鯉節等なり。今大正十三年に就て之を觀るに、砂糖は一億一千九百萬圓を以て第一位を占め、米の四千八百萬圓、芭蕉實の一千百萬圓、樟腦及樟腦油の六百萬圓、酒精の三百萬圓、木材及板材並石炭の各二百萬圓、セメントの百九十萬圓、鯉節の百八十萬圓等順次に之を亞く。

次に移入品の主要なるものは、綿織及絹織布、鹹魚及乾魚、肥料、鐵、酒類、紙、小麥粉等にして、大正十三年には鹹魚及乾魚の八百三十萬圓を以て第一位を占め、綿織及絹織布の七百九十萬圓、肥料の六百六十萬圓、鐵の四百八十萬圓、酒類の三百五十萬圓、小麥粉の二百四十萬圓、紙の二百三十萬圓等順次に之を亞く。

一 移出

品名	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
砂	1,984	1,017	736	81	180	—	—
糖	421	471	282	207	—	—	—
米	1,669	1,007	950	366	123	182	227
芭蕉實	59	757	2,078	1,658	997	937	2,093
樟腦及樟腦油	409	226	140	358	293	302	154
酒精	3,040	3,337	3,582	1,924	1,718	3,492	1,257
酒	5,996	5,214	4,080	3,494	4,849	3,740	2,570
米	1,286	8,280	6,876	4,156	1,806	2,030	337

品名	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
セメント	1,984	1,017	736	81	180	—	—
鮮魚	421	471	282	207	—	—	—
食鹽	1,669	1,007	950	366	123	182	227
銅	59	757	2,078	1,658	997	937	2,093
茶	409	226	140	358	293	302	154
木材及板材	3,040	3,337	3,582	1,924	1,718	3,492	1,257
鯉節	1,890	1,842	1,855	1,208	854	774	199
石炭	2,065	1,841	1,790	579	1,618	951	—
鳳梨罐詰	1,351	925	860	865	840	519	—
麻織物	701	550	653	719	494	275	—
生皮	204	189	148	202	367	393	209

二 移入

品名	大正十三年	同十二年	同十一年	同十年	同九年	同八年	同元年
綿織及絹織布	7,926	6,473	6,422	7,737	6,039	8,123	5,026
鹹魚及乾魚	6,469	4,355	4,182	4,922	6,423	6,814	3,054
鐵	4,897	4,065	4,262	6,031	5,909	4,240	1,880
木材及板材	1,371	1,842	2,895	4,400	7,732	2,252	3,471
清酒	1,944	1,708	3,768	3,683	2,513	3,123	1,354

麥酒	一、五六一	一、六四三	一、四七七	一、九九九	一、八七九	一、三八一	四六八
錫	一、九〇九	一、四九二	六三八	八三三	一、〇二六	五六六	五八〇
過磷酸肥料	一、三八七	七八〇	七六五	七三七	二、四三五	一、六四一	
硫酸アンモニウム	二、八五四	一、六九八	一、二〇三	八三三	—	—	—
調合肥料	二、三八九	一、四四九	二、三六〇	二、四四〇	四、五三七	二、五五一	—
ガンニ―糞及	一、六三七	五六二	三三六	四六〇	六〇三	五二九	二二五
黃麻	一、三四六	一、〇五五	一、二三八	一、五七八	一、八六三	二、六六九	四八二
燐	二、三八八	二、一七一	二、一五七	二、三六四	二、六二〇	二、三三三	八三八
紙	二、四〇九	一、九七八	五、七三二	一、六八〇	一、四一七	一、三八一	一、〇二八
米	一、五三九	一、二〇七	一、三〇〇	一、一〇一	一、九九六	一、九〇七	五〇七
鐵製	一、八〇七	一、五二六	一、七二五	二、二二九	一、五四二	一、〇九六	六六三
煙草	六四五	八九一	四二九	一、四三三	一、四三三	五八五	一、二四六
セメント	二、四八四	一、五五五	二、二二九	一、五二八	一、七九五	一、〇九八	一、六九〇
小麥粉							

三八 港別貿易

大正十三年に於ける臺灣の輸移出入貿易總額三億八千萬圓を港別に觀れば、基隆の一億九千萬圓第一位を占め、總額の五割一分六厘に當り、高雄の一億六千萬圓之に亞て四割三分七厘を占め、安平の一千萬圓、淡水の三百八十萬圓を始め殘餘の諸港は之を合算するも尙僅かに總額の四分七厘を占むるに過ぎず。

今之を内地其の他の諸港と比較するに、基隆は横濱、神戸、大阪、大連、釜山に亞て第六位を、同じく高雄は第七位を占めて共に釜山と仁川との中間に在り。更に安平は三池と鹿兒島との中間に、淡水は絲崎と徳山との中間に位ひす。

横 神 大 釜 基 高 仁 門

濱 戸 阪 連 山 隆 雄 川 司

總額	一、三〇八、一三三	六、七三二、二八四	六、三五、八四九
輸出	一、七五七、三三三	五、八〇、二九四	一、二七七、〇三九
輸入	一、五五〇、八〇〇	九、五三二、〇〇〇	五、四八一、八一〇
基隆	一、九〇九	一、八〇六	一、八〇六
高雄	一、六〇一	一、八〇六	一、八〇六
安平	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇
淡水	三〇〇	三〇〇	三〇〇
其他諸港	一、〇〇〇	一、〇〇〇	一、〇〇〇

三池	一三,九七一	八八七	五,一四四
安平	一〇,五三七	一,三三八	九,三〇九
鹿兒島	九,八二七	一五四	九,六六三
絲崎	三,九三四	—	三,九三四
淡水	三,八三六	八三三	三,〇〇二
德山	三,二〇四	二二六	二,九七八

臺灣及朝鮮の輸出中には移出を、輸入中には移入を含む。
 朝鮮、關東州は同廳統計書に依る。
 北海道、内地府縣は第四十四回帝國統計年鑑に依る。

三九 財政

臺灣總督府特別會計が全く國庫の補助を受けずして、獨立の實を擧ぐるに至りしは、明治三十八年度なりき。而して同年度の歳入は僅かに二千五百萬圓に過ぎざりしか、爾來年と共に其の額を増大し、大正八年度には一億圓を突破し、大正九年度には一億一千九百萬圓を以て新記録を作りたり。然るに大正十年度よりは更に減退を示し、大正十四年度には八千九百八十萬圓を豫算せり。
 次に歳入中其の主要部分を占むるは、官業及官有財産收入にして、其の歳入總額に對する割合は、年に依り多少の高低あるも、少きは三割九分、多きは七割六分を占む。
 歳出は明治三十八年度の二千萬圓より、大正八年度の七千二百萬圓に増加し、更に大正十一年度には九千六百萬圓に増額したりしも、大正十二年以降は八千萬圓臺に減退せり。

年次	歳入			歳入百分比例			歳出	
	總額	租稅	其他	租稅	其他	數指	數指	
明治三十八年度	二五,四二四	七,三八五	一三,九一九	二九・一	五四・八	一〇〇	二〇,四四三	
大正元年度	六〇,二九六	一三,四九四	二四,七三〇	二二・四	四一・〇	三六・六	四七,一八九	
同 六年度	六五,四五五	九,九六九	三六,九五七	一五・二	五六・五	二八・三	四六,一六七	
同 七年度	八〇,五〇一	一一,三四六	三九,六八八	一四・一	四九・三	三六・六	五五,三三五	

同	八年度	一〇〇,一六六	一五,三三〇	四五,六二九	三九,三〇七	三九四	一五二	四五六	三九二	七二,三三三	三五四
同	九年度	一一九,一四八	二四,三〇二	五一,八四六	四三,〇〇〇	四六九	二〇四	四三五	三六一	九五,三三四	四六六
同	十年度	一二二,〇三六	二一,三三九	四三,九六五	四六,八三一	四四一	一九〇	三九二	四一八	九四,五二〇	四六二
同	十一年度	一二三,四二一	一九,〇一七	五九,六五七	三四,七四九	四四六	一六八	五二六	三〇六	九六,三四七	四七一
同	十二年度	一一一,〇九八	一七,六七三	六五,一一〇	二八,三〇五	四三七	一五九	五八六	二五五	八七,七三九	四二九
同	十三年度	一一三,六二五	一七,五九七	六四,二七九	三一,七三九	四四七	一五五	五八六	二七九	八六,八六二	四二五
同	十四年度	八九,八六六	一五,四五三	六八,五七三	五,八四〇	三五四	一七二	七六三	六五	八九,八六六	四四〇

本表中大正十一年度迄は決算、大正十二年度及同十三年度は現計、大正十四年度は豫算なり。

四〇 專 賣

臺灣の專賣は現在、阿片、食鹽、樟腦、煙草及酒の五種なるが、就中酒は大正十一年七月以降の實施さす。今最近十三年間に於ける賣渡價額を觀るに、大正元年度に千七百萬圓なりしものか、大正六年度には二千萬圓を越ゆるに至り、更に大正九年度には三千萬圓を突破したるも、翌大正十年度には經濟界の世界的不況に伴ひ、樟腦の如きは特に前年度の一千萬圓より五百萬圓に減退したる爲め、總額も二千五百萬圓に低下したりしか、大正十一年度には稍々景況を回復したるを、酒專賣實施の結果總額三千四百萬圓に達し、大正十三年度には四千百萬圓に増加せり。

賣渡總價額

阿片烟膏

食 鹽

大正元年度	一七,〇九六,九二一	六〇,三七,八三八	七四七,九三二
二年度	一六,四九七,五〇〇	五八,八六,四〇〇	八〇八,九二二
三年度	一六,三六一,八二二	五,六八三,八六四	八九六,四六九
四年度	一六,五一七,七三四	五,八〇〇,七二四	八七三,九七八
五年度	一九,五九七,九二一	六,五九〇,一五三	九五二,九三五
六年度	二一,〇三五,七〇二	六,九二四,三七七	一,一八〇,四六五
七年度	二二,六六二,三四五	七,五五二,二四五	一,〇九三,二〇五
八年度	二七,四二三,三六一	七,六一九,四二二	九七九,〇八五
九年度	三二,九七三,八三五	七,七〇八,三三五	九九七,七七八

同	同	一三〇	一〇三	一三二	四七八	二〇三	二一六	二五七	二七二
同	十三年	一四六	九九	一四〇	四七三	二〇三	一三五	二七四	二七八

四三 教育

臺灣の教育は、大正十一年二月發布の臺灣教育令に依り、從來の方針を一變し、初等教育を除くの外は、悉く内臺人共學の制を採るに至れり。而して初等教育機關たる小學校及公學校の八百五十六校、兒童二十四萬三千人、高等普通教育機關たる高等學校、中學校及高等女學校の二十一校、生徒六千五百人、師範學校は三校、生徒千八百人、實業教育機關たる實業補習學校、農林學校、工業學校、商業學校の十三校、生徒千九百人、專門教育機關たる醫學專門學校、高等農林學校、高等商業學校、商業專門學校の四校、生徒八百人、私立各種學校十八校、生徒二千四百人、書房百二十六、生徒五千百人あり。次に初等教育機關を内地其他と比較するに、人口千に對する小學校兒童數は、内地府縣の百五十三人一分最も多く、關東州の百一人六分最も少く、我臺灣は百二十九人七分を以て僅かに關東州の上に位す。又臺灣の公學校、朝鮮の官公私立普通學校、樺太の土人教育所及關東州の官立公學堂及公立普通學堂兒童の人口千に對する割合は、樺太の百十九人五分最も多く、我臺灣は五十八人六分を以て之に亞き、朝鮮は僅かに十九人六分を以て最下位に在り。

一 教育機關 (大正十四年三月末日現在)

醫學專門學校	學校數	教員數	生徒又は兒童數	教員一人に付生徒數
	一	七	三五	四八

高等農林學校	一	三六	一五五	四二
高等商業學校	一	三〇	一九七	六六
商業專門學校	一	三三	一一六	八九
高等學校	一	三三	一六〇	七三
師範學校	三	九二	一八三七	二〇二
中學校	九	一四六	三,〇五四	二〇九
高等女學校	二	一九五	三,二九六	一七一
農林學校	一	一六	二二七	一四三
工業學校	一	五五	五五七	一〇一
商業學校	二	三八	六三三	一六四
小學校	一三三	七四四	二二,七八五	三三〇
公學校	七四	五,一七三	二九,四七二	四〇四
實業補習學校	九	六〇	五,一七三	八六
私立各種學校	一八	二五四	二,四二三	九五
書房	一六	一八〇	五,一六五	二八七

學校數(小學校及公學校は分教場を含む)、教員は大正十四年三月末日現在にして其の生徒又は兒童數は同三月一日現在なり。
教員には兼務者を含む。

二 内地其他の初等教育比較

小學校	校數	教員數	兒童數	一校平均兒童	教員一人に付兒童	人口千に付兒童
臺灣	一三三	七四四	三三,七八五	一八〇・二	三三・〇	一一九・七
朝鮮	四四八	一,二七二	五三,八四九	一二〇・三	四三・三	一三〇・八
樺太	一五六	五四〇	二二,九〇六	一四〇・四	四〇・六	一四六・七
關東	五一	六五七	二二,三五七	四一八・八	三三・五	一〇一・六
北海道	一,五七六	八,一八〇	四〇二,一六四	二五四・九	四九・二	一四二・一
内地府縣	二四,〇〇四	一八七,〇二七	八六,一八,四五五	三五九・〇	四六・一	一五三・一
公學校	七三四	五,一七三	二九,四七二	三〇三・一	四二・四	五八・六
臺灣	一,三二八	七,〇八三	三四六,〇四八	二八四・一	四八・九	一九六
朝鮮	六	七	一九八	三三・〇	二八・三	一一九・五
樺太	一三九	六三九	三三,九三三	一七七八	三五九	二八六
關東	一	一	一	一	一	一

公學校の朝鮮は官公私立普通學校、樺太は土人教育所、關東州は官立公學堂及公立普通學堂の事實なり。
人口千に付兒童算出の基數は、小學校に在りては内地人のみを、公學校に在りては各其の本土人のみを以て算出す。

臺灣の兒童は大正十四年三月一日現在なり。
 朝鮮は大正十三年度末(兒童は大正十四年三月一日)現在にして大正十三年朝鮮總督府統計年報に依る。
 樺太は大正十三年度末現在にして第十七回樺太廳治一班に依る。
 關東州(州内、州外、領事館)は大正十三年末現在にして關東廳第十九統計書に依る。
 北海道、内地府縣は大正十一年度末(兒童は大正十二年三月一日)現在にして第四十四回帝國統計年鑑に依る。

四四 衛生機關

臺灣には大正十三年末現在、官立十二、公立二十二、私立七十一、計百五の醫院と、九百二十七名の醫師と、五百五十八名の醫生と、九百三十二名の産婆を有す。醫師、醫生一人に對する人口は全島平均二千六百六十四人にして、その割合の最も少きは新竹州の二千百五十七人、最も多きは臺南州の三千九十九人なり。

總數	醫院			醫師及醫生			産婆	醫師醫生一人に付人口
	官立	公立	私立	醫師	醫生	産婆		
臺北州	三	三	七	一四八	九七	五五八	九三二	二、六六四
新竹州	一	六	三	二四〇	二四一	九九	一七七	二、三八三
臺中州	一	一	八	二七七	九〇	一八七	三六	二、一五七
臺南州	一	六	二〇	三二〇	一九六	二二四	九一	二、七五九
高雄州	二	六	五	三三〇	二二七	一〇三	四八三	三、〇九〇
臺東廳	三	二	五	一九〇	一三五	五五	二九	三、〇四二
花蓮港廳	一	一	一	一五	一五	一	三	二、七九五
總數	三三	三三	七二	一、四八五	九七	五五八	九三二	二、六六四

醫生は明治三十四年府令第四十七號臺灣醫生免許規則に依り免許を得て其の管轄内に於て醫師を業と爲す者とす。
 本表の外藥劑師八十二名、齒科醫師九十七名を有す。

四五 水道

臺灣に於ける既設水道の總數は二十七箇所にして、其の所管は臺灣總督府所管一（恒春種畜支所）、陸軍省所管三（臺東、玉里、パロン）、州所管一（蘇澳）、廳所管二（花蓮港、ピナ）にして其の他は總て所在市街庄の經營に係る。

大正十三年度末現在給水戸數は、計量器の設備なき分の中九箇所を除き、専用栓給水戸數二萬四千三百八十一戸、共用栓給水戸數一萬八千六百九十六戸にして、同年度中の消費水量は同しく二千七百四十三萬餘立方米なり。

年度末現在

年度中消費水量（立方米）

名稱	給水開始年月	專用栓戸數	共用栓戸數	總數	計量供給	放任供給
淡水	明治三二年三月	四〇〇	一〇〇	七八六、六二七	三四、六二七	七五二、〇〇〇
基隆	同 三五年三月	三、三四六	二、三三八	二、七五一、五二〇	一、四〇一、〇〇三	一、三五〇、五〇七
彰化	同 四一年四月	四五二	三二六	六七五、五五五	四七一、六九五	二〇三、八六〇
臺北	同 四二年四月	一〇、六八八	八、八一〇	九九〇三、六二四	一、六三六、九〇三	八、二六六、七二一
臺北	同 四四年六月	八二	六	一一〇、五六三	一八、五六三	一〇二、〇〇〇
士林	同 四四年五月	一七六	二六	七八〇、二二〇	—	七八〇、二二〇
大甲	同 四五年六月	一九三	一四五	二六八、二〇〇	七〇、二〇〇	一九八、〇〇〇
斗六	大正元年八月	一四二	六三	一〇三、二二三	七〇、三六九	三二、八六四
高雄	同 二年四月	一、八一四	八七二	二、八四五、〇三二	六八一、五〇七	二、一六三、五二五

嘉	義	大正三年二月	一,〇三四	二,二六九	一,八七七,〇七四	五六九,四三八	一,三〇七,六三六
三	星	同 三年三月	三〇	二二一	五五,九三七	—	五五,九三七
臺	中	同 五年五月	二,三七四	四七四	二,七九四,一二七	一九一,一二三	二,六〇三,〇〇五
屏	東	同 五年一月	五八五	四七二	八一,七二二	二〇二,八九九	六〇八,八一三
豐	原	同 一〇年九月	二六三	九九	三〇〇,七七〇	—	三〇〇,七七〇
花	蓮	同 一〇年九月	四七六	九九	四五五,三八八	—	三〇〇,七七〇
臺	南	同 一〇年四月	一,八二五	一,六五六	二,四九七,一一三	一〇六,七三七	三〇八,六五一
新	化	同 一〇年四月	五六	一〇二	五五,三一一	五〇〇,五〇四	一,九九六,六〇九
埔	里	同 一二年六月	四五六	四四四	三五四,五八〇	一五,四七二	三三九,一〇八

本表の外金山、坪林、蘇澳、二水、臺東、バロン、ピナン、恒春(種畜支所)、玉里の九水道あるも、消費水量不明に付之を除く。

四六。ベストとマラリア

臺灣は一般に不健康地の如く解せらるゝも、衛生設備の完成と共に、近年其の面目を一新し、ベストの如き大正七年以來全く之れか發生を見ず。又マラリアの如きも其の死亡数は年に依りて増減ありと雖、一般に減退の傾向を示し、明治三十九年に於て人口千に付死亡數三人二分一厘なりしものが、大正十三年には二人に減退し、其の實數に於ても同年間に二割五分を減したり。

明治三十九年	死亡實數	ベスト	マラリア	指數	マラリア	ベスト	マラリア	人口千に付死亡
同 四十年	二,五三四	一〇〇	一〇〇	一〇〇	〇七七	〇七七	三三二	三三二
同 四十一年	二,四四八	九七	一一一	一一一	〇七九	〇七九	三七七	三七七
同 四十二年	一,〇六四	四二	一一一	一一一	〇三四	〇三四	三七五	三七五
同 四十三年	八五四	三四	九八	九八	〇二七	〇二七	三二六	三二六
同 四十四年	二五	一	八六	八六	〇〇一	〇〇一	二九二	二九二
同 四十五年	三六一	一四	七五	七五	〇一一	〇一一	二四二	二四二
大正元年	一八七	七	六五	六五	〇〇六	〇〇六	二〇六	二〇六
同 二年	一三三	五	六三	六三	〇〇四	〇〇四	一九二	一九二
同 三年	四九四	一九	八四	八四	〇一四	〇一四	二五六	二五六
同 四年	六四	三	二六	二六	〇〇二	〇〇二	三八三	三八三

大正元年
同二年
同三年
同四年
同五年
同六年
同七年
同八年
同九年
同十年
同十一年

八七,三七一
八二,一八八
七六,九九五
七一,七二五
六六,八四七
六二,三二七
五五,七七二
五二,〇六三
四八,〇二二
四四,九三三
四二,一〇八

七五,九九九
七一,三八一
六六,八四〇
六二,一五六
五七,八二九
五三,八三八
四八,一五八
四四,八九〇
四一,三七五
三八,六八〇
三六,三五七

一一,三七二
一〇,七四七
一〇,一五五
九,五五九
九,〇一八
八,四七九
七,六一四
七,一七三
六,六三七
六,二四二
五,八五一

一〇〇
九四
八八
八二
七七
七一
六四
六〇
五五
五一
四八

五二
四九
四六
四五
四二
三九
三五
三三
二八
二六
二四

八八
八三
七七
七六
七〇
六五
五九
五五
四七
四四
四一

一四
一三
一三
一三
一三
一三
一〇
〇九
〇八
〇七
〇七

總數

男

女

指數

總數

男

女

特許年齡以上の
本島人百に付

臺灣總督府は阿片問題に就ては、嚴禁主義を避けて漸禁の方針を執り、阿片癮者も認むる者に限り其の吸食を特許し、漸次之が絶滅を期し、逐年豫期の目的の到達に近づきつゝあり。即ち之を最近十三年間に就て觀るに、阿片吸食特許者(本島人)の數は八萬七千三百七十一人より三萬六千六百二十七人に減少したり。

四七 阿片吸食特許者

同五年
同六年
同七年
同八年
同九年
同十年
同十一年
同十二年
同十三年

二
三
|
|
|
|
|
|
|
|
|

一一,三四六
九,七二九
八,二九二
八,一〇六
七,七六〇
七,〇七〇
八,九一六
七,一六四
七,九三五

〇
〇
|
|
|
|
|
|
|
|
|

一〇七
九二
七九
七七
七三
七〇
六八
六六
五七

〇
〇
|
|
|
|
|
|
|
|
|

三三三
二七三
二二二
二二二
二二二
一八八
一八四
二〇一

同	十二年	三九四六三	三三、九六五	五四九八	四五	二三	三九	〇六
同	十三年	三六六七	三、四九一	五、二二六	四二	二二	三六	〇六

本表は各年十二月末日現在にして本島人のみなり。

四八 鐵道

臺灣の鐵道は、大正十三年度末には官設鐵道(阿里山鐵道を含む)の營業哩數五百五十哩に達し、外に私設鐵道千三百七哩を有す。私設鐵道は主として製糖會社の經營する所にして内、營業線は三百十四哩なり。

今之を内地其他と比較するに、百方里に付鐵道營業線の哩數は、關東州の二百八十八哩四分最も多く、我臺灣の六十九哩五分之に亞き、樺太の五哩六分最も少く、更に人口萬に付哩數は樺太の八哩六分最も多く、朝鮮は約一哩にして最も少く、臺灣は二哩二分を以て内地の上に在り。

營業線路延長(哩)

	總數	官設	私設	百方里に付哩	人口萬に付哩
臺灣	八六四	五五〇	三二四	六九五	二二
朝鮮	一七三五	一、三〇〇	四三五	一一一	一〇
關東州	一三三	一三三	—	五六	八六
樺太	六九五	—	六九五	二八八四	六九
北海道	一、三六六	一、二八一	一一五	三三七	四九
内地府縣	八、一七九	五、八四九	二、三三〇	四三〇	一五

朝鮮、樺太、關東州は大正十三年度末にして同廳統計書に依る。

北海道、内地府縣は大正十二年度中の平均營業哩にして第四十四回帝國統計年鑑に依る。

四九 郵便、電信、電話

臺灣に於ける郵便、電信、電話の現況を観るに、大正十三年度に於て通常郵便は引受五千五百萬、配達六千三百萬、電信は發信百三十萬、著信百三十六萬、爲替は振出二千四百七十萬圓、拂渡千七百萬圓、貯金は預入一千二百二十萬圓、拂戻一千六十萬圓なり。又同年度末現在電話加入者數は一萬一千百七十九、年度中加入者發信通話度數は四千六百二十萬、公設電話發信通話時數二十三萬なり。

今之を内地其の他と比較するに、人口十に對する割合は通常郵便引受、電報發信、爲替振出及貯金預入を通して最多數を示すは樺太にして、其の最小數は通常郵便引受、電報發信及爲替振出の三は朝鮮、貯金預入は臺灣なり。又人口十に付電話加入者數の最も多きは樺太、最も少きは朝鮮にして、同加入者一に付通話度數の最も多きは關東州、最も少きは内地府縣なり。

一 郵便、電信、爲替、貯金及電話

通常郵便
引人口十に對する受

五五、八六九、八八八
六三、五七四、〇二一
一四三七

電 話		貯 金		爲 替		電 信	
人口千に付 電話發信通話時數	人口千に付 電話發信通話時數	預入者 人口十に對する	拂入者 人口十に對する	振出者 人口十に對する	拂入者 人口十に對する	發信者 人口十に對する	著信者 人口十に對する
五九五	三三五五六	二八五	二二、六一、七〇圓	六三五	二四、七三、四七〇圓	三三	一、三〇七、二八五
	四、三三九	二八	一〇、六三、三六七圓		一七、三三、四三五圓		一、三六四、二一九
	四、二六八、三三二						
	二、二七九						

二 内地其の他との比較 (大正十三年度)

内地府縣	通常郵便引受		電報發信		爲替振出		貯金預入		電話	
	人口千に對する	加入者數	人口千に對する	加入者數	人口千に對する	加入者數	人口千に對する	加入者數	人口千に對する	加入者數
臺灣	一四三七	三三	二七	二八	二八五	二八	四、一三九	四、〇九四	四、〇九四	四、〇九四
朝鮮	九六三	二七	二七	一四	三〇〇	一四	五、四四九	五、四四九	五、四四九	五、四四九
關東州	一、三〇七三	三三	二七	二八	三三〇	二八	六、二九八	六、二九八	六、二九八	六、二九八
北 海道	四六二	一九七	一九七	一三三	九三四	一三三	四、二二七	四、二二七	四、二二七	四、二二七
内地府縣	六六八	三二	三二	八三	一五八一	八三	二、九一七	二、九一七	二、九一七	二、九一七
内地府縣	六五三	二二	二二	七三	一三三八	七三				

朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。
 北海道及内地府縣の通常郵便引受には外國郵便を、爲替振出には外國爲替を含まず。
 北海道、内地府縣は大正十二年度の事實にして第四十四回帝國統計年鑑に依る。

本表巡查一人に付人口中臺灣の分は蕃地居住の蕃人を算入して算出す。
 臺灣の警察署には郡役所警察課及支廳を含む。
 關東州の警察支署及民政支署は警察分署として掲す。
 朝鮮、樺太、關東州は同廳統計書に依る。
 北海道、内地府縣は第四十四回帝國統計年鑑に依る。

五一 最近十二年間の進歩

人	耕		總	地	人	人	人	人	口
	總	田							
總	三、四三五、一七〇	四、〇四一、七〇一	一、八三、三七	一、二八	三、二二二、二二	三、七四二、一六	八四、九九六	三、二二七、三	一、四九
內地	一、三三七、九三	一、八三、三七	三、七四二、一六	一、四九	一、一三三、二七	一、七、九二九	八、一三、二七	一、七、九二九	一、二六
本島	三、二二二、二二	三、七四二、一六	八四、九九六	一、二六	一、一三三、二七	一、七、九二九	八、一三、二七	一、七、九二九	一、〇五
蕃地	七二、二八二甲	七八五、四三六甲	三、二二七、三	一、二〇	三、二二二、二二	三、七四二、一六	八四、九九六	三、二二七、三	一、七四
總	三、四六、三七四甲	三、八〇、七五甲	四〇五、三五一甲	一、一〇	三、二二二、二二	三、七四二、一六	八四、九九六	三、二二七、三	一、二〇
田	三、六四、九〇八甲	四〇五、三五一甲	三、二二二、二二	一、一一	三、二二二、二二	三、七四二、一六	八四、九九六	三、二二七、三	一、二〇
畑	七四、九一、七六一圓	三、二二、三七六九二圓	三、二二、三七六九二圓	二、九七	七四、九一、七六一圓	三、二二、三七六九二圓	三、二二、三七六九二圓	七四、九一、七六一圓	二、九七
農	二五、六六、八七二圓	三、一三、四四七二〇圓	三、一三、四四七二〇圓	二、三三	二五、六六、八七二圓	三、一三、四四七二〇圓	三、一三、四四七二〇圓	二五、六六、八七二圓	二、三三
畜	?	一、一四、二七、三三〇圓	一、一四、二七、三三〇圓	?	?	?	?	?	?
林									

大正元年を百として
の指數

鐵	水	工	糖	甘蔗收穫面積	製糖	貿易	總	外國貿易	內地貿易	財政	歲	歲	專	總		
產	產	業	積	高	易	額	額	易	易	政	入	出	賣	額		
四,四八二,五六一圓	一三,三一九,三〇三圓	一六,四三二,八九一圓	二,三六三,二六六,七四圓	七五,三三九甲	一三〇,三七二甲	七九九,二三三,〇四七斤(大正十四年)	二四九,三九九,七七九斤	二五,四二四,〇九五圓	三三,四二七,二二圓	三八六,七〇〇,二七二圓	八八,九九九,九九圓	二九七,七〇〇,二八三圓	一,二三六,一四七,七七圓	八六,八六一,八四七圓	四一,八二一,七九八圓	二四,五
二九七	七三〇	四五四	一七三	三三〇	一七八	一八四	二四八	二六〇	三三七	三〇八	二六〇	三三七	一八八	一八四	二四八	二四八

阿片賣渡價額	食鹽賣渡價額	樟腦賣渡價額	煙草賣渡價額	酒賣渡價額	教育	小學校兒童	公學校兒童	中等學校生徒	實業學校生徒	師範學校生徒	專門學校生徒	鐵道	官設鐵道線路延長	運輸(乘客賃金)	收入(貨物賃金)
六,〇二七,八三八圓	七四七,九三二圓	五,七六五,〇三〇圓	四,五四一,五四六圓	—	育	八,九八〇	四九,五五四	一,〇〇七	五八	四六四	二二〇	—	三〇三哩	二,二三五,八九四圓	二,五四八,〇三四圓
五,一八四,〇三六圓	二,八三八,二八一圓	一,〇七九,八七二圓	一,一〇三,一五七〇圓	一,一六七八,〇三九圓	—	二,三七八五	二,九四七二	六,五一〇	一九三二	一,八三七	八二〇	—	五五〇哩	六,二一八,八四〇圓	八,二九八,三八四圓
八六	三七九	一九二	二四三	—	—	二六五	四四三	六四六	三,三一四	三九六	三九〇	—	一八二	二七五	三三六

八〇八哩

一三〇七哩

一六二

私設鐵道線路延長
郵便、電信及電話

通常郵便引受通數

電報發信通數

爲替振出金額

貯金預入金額

電話

年度末現在
加入者
通話度數

三〇、五七五、二二四

五五、八六九、八八八

一八三

九〇三、三六二

一三〇七、二八五

一四五

一四、三九七、〇四五圓

二四、七三三、四七〇圓

一七二

三、一九六、二四三圓

一一、二六一、七一〇圓

三五二

三、七五八

一一、二七九

二九七

一七、六三四、六二〇

四六、二六八、三三一

二六二

129

128

131

130

133

132

135

134

大正十五年六月廿八日印刷
大正十五年六月三十日發行

臺灣總督府

臺北市八甲町一丁目六番地

印刷者 青木 崑

臺北市八甲町一丁目六番地

印刷所 盛文社

516

357

終

